

# 夷王山墳墓群 Ⅱ

— 駐車場造成工事による緊急調査 —

1991・3

上ノ国町教育委員会



## 序

夷王山墳墓群は昭和27年、昭和39年の2回にわたり一部の発掘調査がなされました。その結果松前氏祖武田、蛸崎氏一族の墳墓としてその重要性が指摘され、北海道指定史蹟として大切に保存されてきました。

その後昭和56年の勝山館跡での発掘調査、昭和56年～昭和58年の夷王山墳墓群での文化庁補助の文化財保存事業に伴う発掘調査により隣接地区の国指定史蹟上之国勝山館跡との関連性が明確となり、昭和60年にはその指定地に加えられる事になりました。

その後町で史蹟指定地に駐車場を建設することとなったため、史蹟の現状変更に伴うこのたびの発掘調査となったものです。

調査の結果6基の土壌、焼土等が検出され、夷王山墳墓群の火葬場である事がわかりました。

今後夷王山墳墓群を含めた国指定史蹟上之国勝山館跡を本道に和人が定着し始めた時代の遺跡として永く後世に伝えねばならないと考えております。

文末ではございますが本調査にご高配を賜りました文化庁、関係の諸先生に厚くお礼を申し上げます。

平成3年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 和 泉 定 夫

## 本文目次

### 序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次  
例言／引用参考文献

I 調査概要	1
II 遺構確認調査	1
1. 1号土壌	1
(1) 位置・概要	1
(2) 層序	1
(3) 出土遺物	1
(4) 遺物分布	5
2. 2号土壌	9
(1) 位置・概要	9
(2) 層序	9
(3) 出土遺物	9
(4) 遺物分布	9
3. 3号土壌	9
(1) 位置・概要	9
(2) 層序	9
(3) 出土遺物	9
(4) 遺物、その他の分布	12
4. 4号土壌	17
(1) 位置・概要	17
(2) 層序	17
(3) 出土遺物	17
(4) 遺物、その他の分布	17
5. 5号土壌	17
(1) 位置・概要	17
(2) 層序	17
(3) 出土遺物	17
(4) 遺物分布	18
6. 6号土壌	18
(1) 位置・概要	18
(2) 層序	21
(3) 出土遺物	21
(4) 遺物分布	21
7. 焼土	21
(1) 位置・概要	21
(2) 層序	21
(3) 出土遺物	28
(4) 焼土1	28
(5) 焼土2	28

(6) 焼土3	28
8. 旧道跡	28
(1) 位置・概要	28
(2) 層序	28
9. 7号土壌	33
(1) 位置・概要	33
(2) 層序	33
10. 溝	35
(1) 溝1	35
(2) 溝2	36
11. 小ピット群	36
12. その他遺物等	36
III まとめ	37
IV 総括	39

## 挿図目次

第1図 調査位置図	2
第2図 1号土壌平面図	3
第3図 1号土壌遺物分布図	4
第4図 1号土壌出土遺物	5
第5図 2号土壌平面図・土層堆積図	6
第6図 2号土壌遺物分布図	7
第7図 2号土壌出土遺物	8
第8図 3号土壌平面図・土層堆積図	10
第9図 3号土壌遺物分布図	11
第10図 3号土壌出土遺物	12
第11図 4号土壌平面図・土層堆積図	13
第12図 4号土壌遺物分布図	15
第13図 4号土壌出土遺物	16
第14図 5号土壌平面図	18
第15図 5号土壌・土層堆積図・遺物分布図	19
第16図 5号土壌出土遺物	20
第17図 5号土壌出土遺物	21
第18図 6号土壌平面図・土層堆積図	22
第19図 6号土壌遺物分布図	23
第20図 6号土壌出土遺物	24
第21図 焼土平面図・土層堆積図	25
第22図 焼土土層堆積図	25
第23図 焼土平面図・土層堆積図	27
第24図 旧道跡平面図	28
第25図 旧道跡・その他土層堆積図	29
第26図 旧道跡土層堆積図	31
第27図 7号土壌平面図・土層堆積図・溝1 ・溝2 平面図・土層堆積図	34

## 表目次

表1	1号土壌層序表	5
表2	2号土壌層序表	7
表3	3号土壌層序表	12
表4	3号土壌層序表	12
表5	4号土壌層序表	14
表6	4号土壌層序表	14
表7	5号土壌層序表	20
表8	5号土壌層序表	20
表9	6号土壌層序表	24
表10	6号土壌層序表	24
表11	焼土層序表	26
表12	焼土層序表	26
表13	焼土1・2・3層序表	26
表14	1号～7号土壌土壌成分表	27
表15	焼土成分表	27
表16	旧道跡層序表(第25図①)	33
表17	旧道跡層序表(第25図②)	33
表18	旧道跡層序表(第25図③)	35
表19	旧道跡層序表(第25図④)	35
表20	旧道跡層序表(第25図⑤)	35
表21	旧道跡層序表(第26図①)	35
表22	調査区南端層序表(第26図②)	36
表23	溝1層序表	36
表24	溝2層序表	36
表25	7号土壌層序表	37

PL・15 7号土壌・旧道跡・調査区

PL・16 焼土出土遺物・7号土壌出土遺物・調査区内出土遺物

## 附图 調査区地形遺構配置図

### 写真図版目次

PL・1	調査区・1号・4号土壌
PL・2	5号土壌・焼土・旧道跡
PL・3	1号土壌検出状況
PL・4	1号土壌出土遺物
PL・5	2号土壌検出状況
PL・6	2号土壌出土遺物
PL・7	3号土壌検出状況
PL・8	3号土壌出土遺物
PL・9	4号土壌検出状況
PL・10	4号土壌出土遺物
PL・11	5号土壌検出状況
PL・12	5号土壌出土遺物
PL・13	6号土壌検出状況
PL・14	6号土壌出土遺物

## 例 言

- 1 本書は国指定史蹟勝山館跡地内現状変更に伴う発掘調査の概要についてまとめたものである。
- 2 発掘調査は次の体制でのぞんだ  
調査主体者 上ノ国町教育委員会 教育長 和泉定夫  
主管 上ノ国町教育委員会文化課 課長 関登志夫  
発掘担当者 学芸員 斉藤邦典
- 3 本書の編集、執筆は斉藤が行なった。
- 4 挿図の作成は執筆者の指示に従い作業員が行なった。挿図中の北方位は真北を示す。
- 5 調査にあたっては次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。  
文化庁記念物課 服部英雄、北海道教育庁

文化課 奥田敏雄、増田信幸、調査班 森田知忠、田中哲郎、松山教育局 村山誠己、木村幸生、山形大学 仲野浩、東京大学 石井進、神奈川大学 網野善彦、東北学院大学 大石直正、榎森進、京都芸術短期大学 内田俊秀、北海道教育大学 佐々木薫、奈良国立文化財研究所 沢田正昭、釧路町歴史民俗資料館 伊藤和孝、吉野町教育委員会 池田淳、北海道埋蔵文化財センター 三浦正人、七飯町教育委員会 石本省三、松前町教育委員会 久保泰、八雲町教育委員会 三浦孝一、柴田信一、乙部町教育委員会 森広樹、今金町教育委員会 寺崎康史、上ノ国町教育委員会 松崎水穂  
作業員 草間美波子 笹渥悦子

## 引用参考文献

仏教民俗学大系 2、3、4、6 1986年  
葬送墓制研究集成 1～5 1979年  
日本の社会史 7  
新版考古学講座 8 特論 1971年  
新版仏教考古学講座 7 墳墓 1984年  
祖霊信仰と他界観 赤田光男 1986年  
天狗と修験者 宮本義敦雄 1989年  
変貌する神と仏たち 村山修一 1990年  
風水思想と東アジア 渡邊欣雄 1990年  
中世の都市と墳墓 網野善彦、石井進 1988年

密教 額富本宏 1988年  
曼荼羅 松長有慶 1983年  
近世アイヌ墳墓の考古学的研究 平川善祥  
1983年  
瀬棚町発見の火葬墓について 加藤邦雄  
北海道考古学17号 1981年  
夷王山墳墓群調査報告書  
上ノ国町教育委員会 1984年  
草戸千軒 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所  
1985～1986年

## I 調査概要

### 1 調査

上ノ国町では夷王山麓の平坦地を舗装し、観光を目的とした駐車場として整備する計画を1988年度に持った。尚当地区は従来より舗装はなされていなかったものの仮駐車場として利用されてきた経緯がある。しかし国指定史蹟上之國勝山館跡の指定地内にある事より指定地内の現状変更という形になった。また北東20m先には中世和人の墳墓、夷王山墳墓群第2地区が近接しており、墳墓等の検出が予想されたため発掘調査を行った。調査は1989年4月19日～7月10日までの約3ヶ月間行なわれた。調査面積は約1000㎡である。調査方法は当地区が現在旧表土より上に55cm～150cm程の盛土がなされているため、重機による盛土除去後、旧表土より順次掘り下げていった。遺物はII層より下は実測図作成後、レベルを附して取り上げた。4月 重機による盛土除去。I層以下掘り下げる。7号土壌確認。調査。土層堆積図作成。旧道跡検出。土層堆積図作成。5月 7号土壌平面図作成。同写真撮影。旧道跡平面図作成。同写真撮影。1号、2号、4号土壌検出、調査。4号土壌炭化物集積平面図作成。1号土壌土層堆積図作成。小ピット群、溝調査。6月 3号土壌、5号土壌、6号土壌検出。調査。

## II 遺構確認調査

### 1 1号土壌

#### (1) 位置・概要(第2図、附図)

調査区北東に位置し隅丸の十字形を呈する。南、北長軸方向はN8°Eとなる。東西長軸方向はそれに対しほぼ直交する。規模は南北方向で220cm×40cm、東西方向で232cm×32cmで、深さは15～20cm程である。エレベーションによると壁面の立ち上がりはゆるい傾斜をもつ。擴底面は中央部へ向けてゆるい傾斜をもつ。また東端には7cm程の段差を持つ平坦部を有する。

#### (2) 層序(第2図、表1)

IVa層を掘りこみ面としている。覆土には骨粉、焼土粒、炭化物等が含有される。骨粉、焼土粒、炭化物は②以外の覆土に含有される。焼土粒は③、

各土壌土層堆積図作成。焼土土層堆積図作成。3号、4号土壌平面図作成。

7月 旧道跡土層堆積図作成。1号、2号、5号、6号土壌平面図作成。旧道跡平面図作成。写真撮影。

### 2 基本層序

I層 現代の整地盛土層。層厚55cm～150cm。

I層 旧表土。10YR3/3 暗褐～10YR4/3 にぶい黄褐シルト。層厚7cm～35cm。

II層 江戸時代の自然堆積層。10YR3/3 暗褐～10YR4/4 褐シルト。OS-aを含む。層厚7cm～20cm。

III層 旧道跡整地地面。10YR5/4 にぶい黄褐シルト。基盤礫20～30%。やや密。層厚0～15cm。

IVa層 黒色シルト。層厚8cm～10cm。

IVa-1層 7.5YR3/3 暗褐シルト。層厚6cm～10cm。

IVb層 10YR6/6 明黄褐火山灰。層厚0～5cm。

IVc層 縄文期包含層。10YR4/6 シルト。やや密。層厚7cm～8cm。

V層 ソフトローム。10YR5/4 にぶい黄褐～10YR5/6 黄褐。層厚8cm～15cm。

VI層 ハードローム。

⑤に特に多い。炭化物は擴底附近の⑨に多くはぼ炭化物の純層となっている。骨粉は⑤、⑦に覆い。覆土全体の色調は黒～10YR3/2 黒褐である。

#### (3) 出土遺物(第4図、PL4)

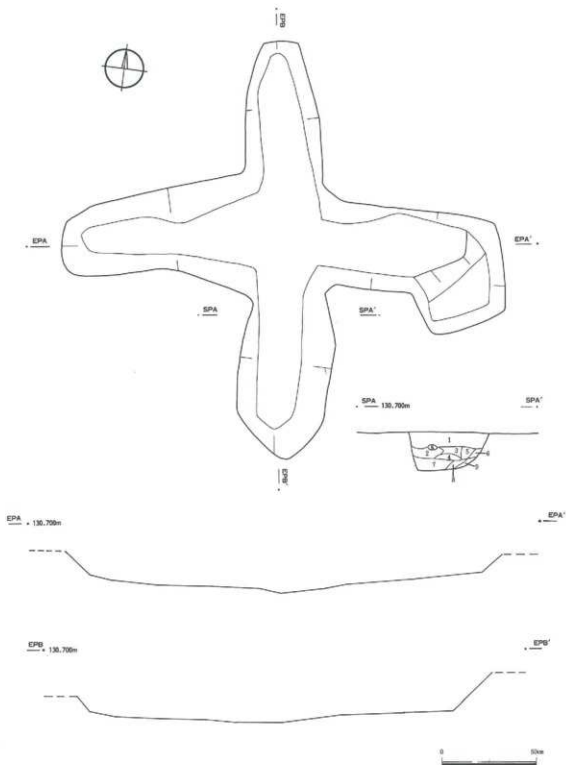
釘、22点出土している。角釘と巻頭釘がある。角釘は2寸1分、2寸2分の所謂大5寸といわれているサイズである(図2～6、10～12)。巻頭釘もほぼ同様な大きさであり2寸～2寸1分程である(図3、7、8)。尚長さは基部欠損のものが多く、基部中央部幅寸法、頭部寸法等を検討して推定長を出した註1

銭15枚出土している。13～16は北宋銭、17は唐銭である。13は3枚、14は2枚、15は3枚、17は2枚がそれぞれ重なっている。13は太平通宝、初

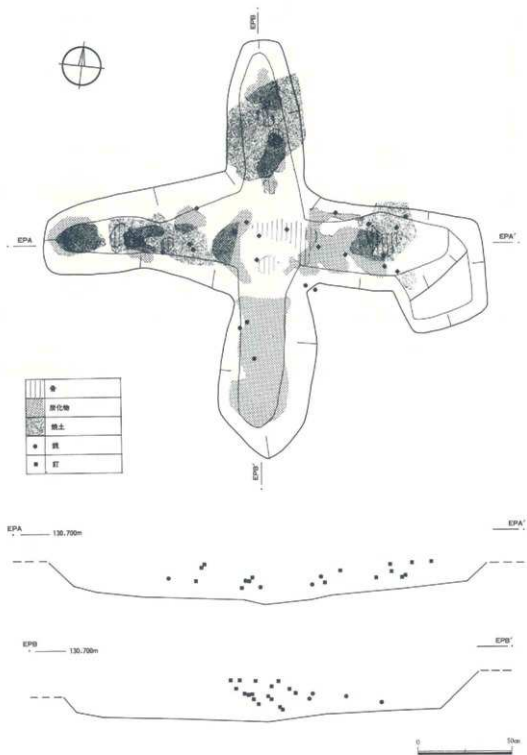


第1図 調査位置図





第 2 图 1号土塘平面图



第3図 1号土坑遺物分布図(釘・鉄・炭化物・焼土・骨)

鑄年976年、14は聖元元宝、初鑄年1101年、15は政和通宝、初鑄年1111年、16は景德元宝、初鑄年1064年、17は開元通宝、初鑄年621年である。尚13と16とPL 4の28の熙寧元宝（2枚重ね）は6枚重なって出土し、出土後剝離したものである。これら釘、銭はいずれも熱を受けている。釘では4図7～12のように加熱され、内部が空洞の袋状の錆となっているものもある。銭は2枚～3枚重ねの裏面が熱を受けていた。

その他（表1、PL 4）覆土内土砂洗浄の結果腕骨、木炭、釘、銭破片、種子（イナキビ）が出土している。その他PL 4の31～35の円形の炭化物が出土している。いずれも中央に小孔を持つ。31は

直径6mm、厚さ5mmで中央に直径0.7mm程の小孔を持つ。32は31よりもやや大きく直径8mm、厚さ6mmで31と同様に0.8mm程の小孔を持つ。以下33～35も同様である。

注1 物質文化43号「近世の釘」金箱文夫を参考にした。

(4) 遺物分布（第3図）

①釘 東西長軸方向に分布しており、南北長軸方向にはみられない。

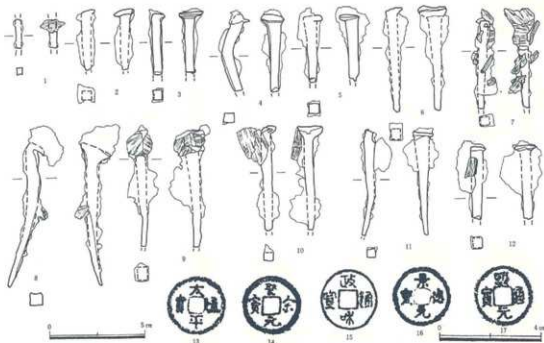
②銭 南北長軸方向の両側に偏在する。

これら、釘はレベル的には床面直上ではなく覆土全体にわたっている。

③腕土 南側を除き全体にある。

表1 1号土壌層序表

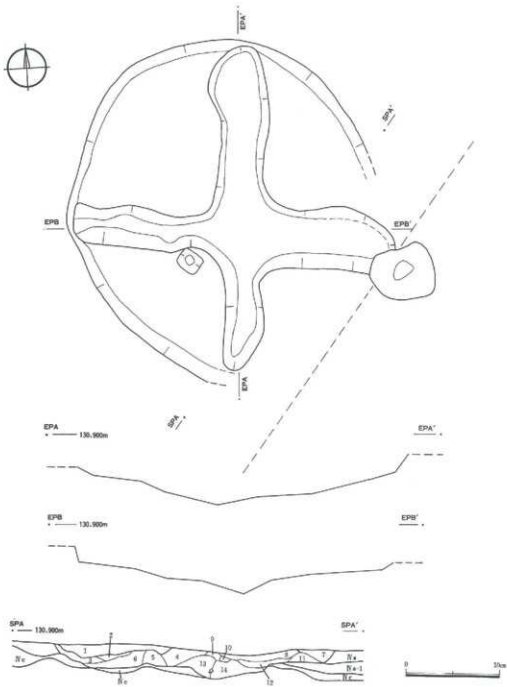
図版番号	層序番号	層序	色		土性	組成	備考
			色	調			
1	覆土	小区分	10YR5/1	黄緑		黄緑+黒色シルト5%、炭化物10%、粘土粒2%、骨粉3%	中々層
2	覆土		10YR5/1	黄	シルト		中々層
3	覆土		10YR5/1	黄緑		ザラザラ粘土粒15%、骨粉10%、炭化物20%	中々層
4	覆土		10YR5/1	黄緑		粘土粒10%、骨粉1%、炭化物20%	中々層
5	覆土		10YR5/1	黄緑		粘土粒15%、骨粉5%、炭化物20%	中々層
6	覆土		10YR5/1	黄緑		粘土20%、炭化物20%	中々層
7	覆土					粘土粒7%、骨粉5%、炭化物20%	中々層
8	覆土		7.5YR5/1	黄緑		粘土粒20%、炭化物20%	中々層
9	覆土		10YR5/1	黄		粘土粒10%、黒色炭化物粒状層	中々層



第4図 1号土壌出土遺物

- ④炭化物 中央部を除き土壌内全体にある。  
 ⑤焼骨 焼土と同様な分布を示すが中央部にやや密集する傾向にある。

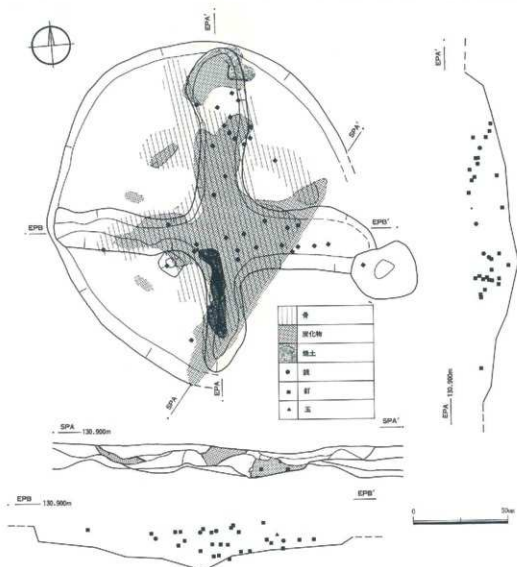
これら焼土、炭化物、焼骨はレベル的には殆ど差がなく、覆土上面～下部全体にある。また東側端部やや南側に屈曲する。10cm程の段差をもつ平



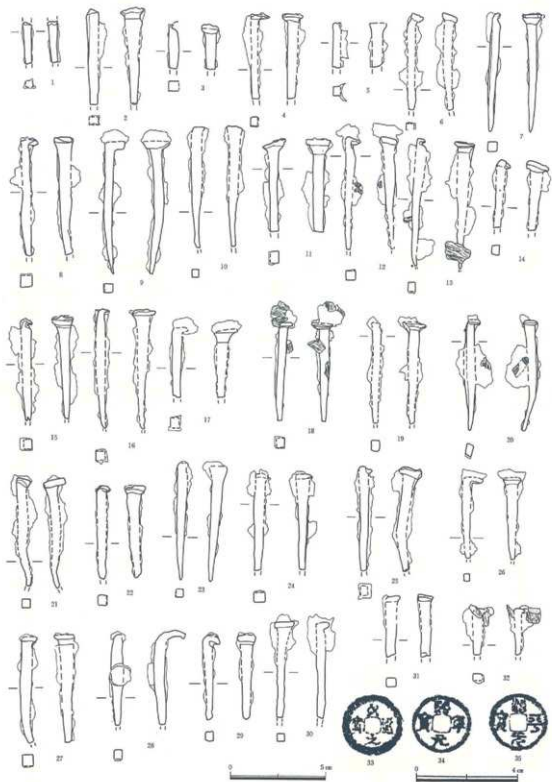
第5図 2号土坑平面図・土層堆積図

表2 2号土壌層序表

区画 層序No.	層序 番号	土質 分類	色 澤	土質 記号	土性	組成	備考
1	目		10YR5/1	2:2:1+黄緑	シルト	20~3(土面), 炭化物2%	中々密
2	壤土		10YR5/1	黄	シルト	炭化物1%	中々密
3	壤土		10YR5/1	黄	シルト	黒色炭化物層主体層含有5%	中々密
4	壤土		10YR5/1	暗黄	シルト	炭化物多い, 骨粉1%	
5	壤土		10YR5/1	暗黄	シルト	黄緑火山灰3%	
6	壤土		10YR5/1	黄	シルト	粘土粒1%, 炭化物20%・骨粉	
7	壤土		10YR5/1	暗黄	シルト	骨粉1%	
8	壤土		10YR5/1	暗黄	シルト	炭化物20%	中々密
9	壤土		10YR5/1 + 黒色シルト	黄+黄緑シルト	シルト	骨粉10%	
10	壤土		10YR5/1 + 黒色シルト	暗黄 に多い黄緑)+ 黒色シルト	シルト	黒色シルト60%, ローム10%, 暗黄シルト30%	中々密
11	壤土						
12	壤土		10YR5/1	黄	シルト	黄緑火山灰30%, 炭化物1%, 粘土3%	中々密
13	壤土		10YR5/1	黄	シルト	黄緑火山灰10%, 炭化物3%	中々密
14	壤土					炭化物主体層, 骨粉10%	



第6図 2号土壌遺物分布図(釘・銭・五・炭化物・焼土・骨)



第7図 2号土墳出土遺物

垣部には釘、銭、焼土、炭化物、焼骨等の分布は全く見られない。

## 2 2号土壌

### (1) 位置・概要 (第5図、附図)

調査区東側に位置する。不整形形の浅い掘り込みの内側に隅丸の十字形土壌を有する。内側の十字形土壌は、南北長軸方向はN3.5°Wとなりほぼ北を向く。東西方向は南北方向に対して94.5°となる。規模は外側の不整形形の掘り込みは直径160cm～100cm、深さは3.7cm～9cm程。また内部十字形掘り込みは南北方向で170cm×25～30cm、東西方向は170cm×20～30cmである。深さは9～22cmである。エレベーションによると横底部は中央部にいくに従い傾斜をもち深くなる。壁面の立ち上がりはゆるやかである。また平面図によると東端に径34cm、深さ8cm程の掘り込みを有する。

### (2) 層序 (第5図)

IVa層を掘りこみ面とする。覆土は炭化物、焼土粒、焼骨が含有、またはそれらの主体層となる。炭化物は③、④、⑨、⑩がその主体層となる。焼土粒の含有は少ない。焼骨は⑬に多い。

尚IVa層遺構確認時において上部マウンド等は認められず、覆土にロームブロック等も含有しない。

### (3) 出土遺物 (第7図、PL6)

釘、47点出土している。頭部等が残存状態の良いものを図示した。角釘と巻頭釘が見られる。角釘は2寸1分、2寸2分(図2、3、7、16、19、22～24)の大五寸、その他2寸5分(図8、10、27)がある。巻頭釘は2寸のものが多い(図6、12、14、17、18、20、21、29、30)、その他2寸～2寸5分(図4、25)、2寸2分～2寸3分(図13、26)、2寸5分(図11)等がある。

銭 8点出土している。拓本が可能なもののみ掲載した。その他のものは粉状あるいは小破片状となっている。掲載したものはいずれも北宋銭である。図33は至道元宝、初鋳年995年、図34は熙寧元宝、初鋳年1068年、35は治平元宝、初鋳年1064年である。尚33は2枚重なっている。釘、銭とも熱を受けている。

その他(表14、PL6)覆土土砂洗浄の結果木炭、焼骨、釘、銭、種子等が検出されている。木炭が最も多い。種子は米、その他不明である。またPL6のスラッグ?状のものは磁着しないため鉄以外

のものが熱を受け溶解したものである。その他PL6-52の円形の炭化物が検出されている。やや楕円形を呈し、直径9mm、厚さ6mm程で中央に楕円形状に1.5mm程の小孔がある。小孔の周囲には小孔を囲むように1mm～1.5mm程の平らな楕円状の平坦面を持つ。

### (4) 遺物分布

①釘、銭 内側十字形土壌中央部、北側、東側に分布する。これらはレベル的には床面直上はわずかで覆土全体にわたるが、内側十字形土壌より外にはみ出すものは少ない。

②焼土 内側十字形土壌北端壁面立ち上がり部分、南西壁面に集中し、壁面直上となる。

③炭化物 内側十字形土壌の中央部を中心として同土壌内東西南北四方に伸びる。東西方向は土壌端部までのびない。

④焼骨 炭化物とほぼ同様な分布状態を示しているが、十字形土壌の外側まではみ出す。これら炭化物、焼骨はレベル的には覆土上面より下部床面直上にまでわたっている。

## 3 3号土壌

### (1) 位置・概要

調査区東側に位置する。不整形の掘り込みの内側に隅丸の十字形土壌を有する。内側の十字形土壌は南北長軸方向はN10°E、東西長軸方向はそれに対しほぼ直交する。規模は外側の不整形の掘り込みは残存部分で東西214cm、深さは5cm～12cmである。内部十字形の掘り込みは南北方向で157cm×55cm、東西方向では271cm×27cm、深さは9cm～23cm程である。エレベーションによると壁面の立ち上がりはゆるやかであり、横底部は中央部および西端に段差をもつ。

### (2) 層序 (第8図SPA-A'、SPB-B')

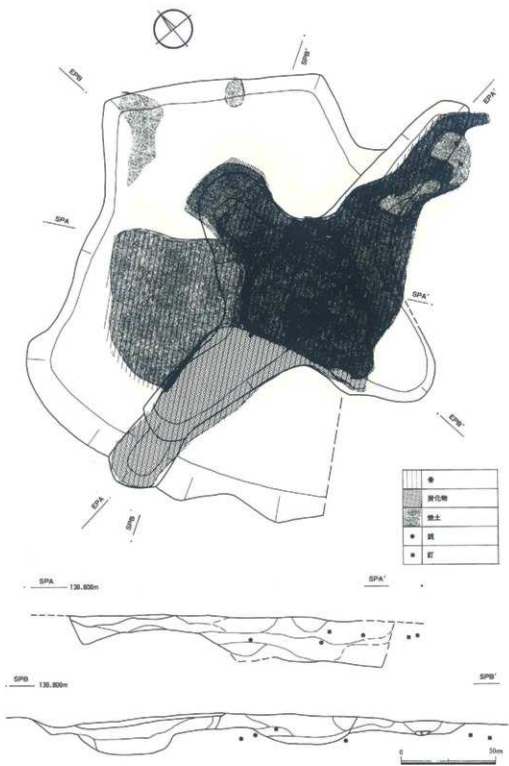
IVa層を掘りこみ面としている。覆土には炭化物、骨粉、焼土粒等が含有される。特にSPA-A'⑧(SPB-B'9)は焼骨、炭化物の主体層である。尚覆土内にはロームブロック等が混入せず覆土上部にはII層の堆積がある事より埋め戻した痕跡はなく、遺構確認時においてもマウンド等は認められなかった。

### (3) 出土遺物 (第10図、PL8)

釘 3点出土した。図1、3は2寸3分程の角釘である。2は頭部がないため大きさ等は不明であるが、断面形が正方形であることより角釘と考え







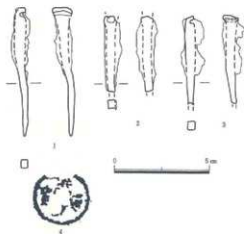
第9図 3号土坑遺物分布図(釘・鉄・炭化物・焼土・骨)

表3 3号土壌層序表(SPA~SPA)

図 表	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	番号No	基本層序	小区分	細別	Janotation			
1	目				10YR 5/1	黒	OS-a10%	やや乾
2	覆土				10YR 5/1	にぶい黄褐色	焼土粒1%	
3	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	
4	覆土				10YR 5/1	にぶい黄褐色	黄粉火山灰	
5	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	黄粉火山灰10%, 焼土粒1%, OS-a9.3%	やや乾
6	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	
7	覆土				10YR 5/1	黒	シルト	
8	覆土				10YR 5/1	にぶい黄褐色	黄粉の混入が多い20%, 焼土1%, 炭化物1%	
9	覆土				10YR 5/1	暗褐色	シルト	
10	覆土							
11	覆土							

表4 3号土壌層序表(SPB~SPB)

図 表	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	番号No	基本層序	小区分	細別	Janotation			
1	目				10YR 5/1+10YR 5/1	にぶい黄褐色+黄褐色	OS-a10%	
2	覆土				10YR 5/1	黒	シルト	焼土粒3%, OS-a1%, 炭化物
3	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	焼土粒3%, 黄粉1%, 炭化物2%
4	覆土				10YR 5/1	黒	シルト	焼土粒3%, OS-a1%, 炭化物2%
5	覆土				10YR 5/1	黄褐色	シルト	焼土粒3%, 炭化物1%
6	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	黄粉シルト30%, 焼土粒3%
7	覆土				10YR 5/1+7.5YR 5/1	黒+黄褐色	焼土粒1%+黄a-1+黄粉シルト20%(まだらに入る)	やや乾
8	覆土				10YR 5/1	黒	シルト	焼土粒1%
9	覆土				10YR 5/1	にぶい黄褐色	シルト	焼土粒3%, 黒色1%, LB 1%, 炭化物2%
10	覆土				10YR 5/1+褐色シルト	にぶい黄褐色+褐色シルト	シルト	焼土粒3%+黄a-1+黄粉10, 炭化物5%
11	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	炭化物2%, 焼土粒1%
12	覆土				10YR 5/1+10YR 5/1	黒+黄褐色	シルト	焼土粒1%
13	覆土				10YR 5/1	にぶい黄褐色	シルト	
14	覆土							



第10図 3号土壌出土遺物

られる。

銭12枚出土している。図4は明銭の洪式通宝、初  
 鋳年は1367年である。7枚重なっている。その他  
 (PL 8-4、6、7)はいずれも判読不明。尚PL

8-7は3枚重なっている。

その他、覆土洗浄の結果木炭、焼骨、鉄、銭、  
 種子(イナキビ?)が検出されている。その他円  
 盤状の炭化物(PL 8-?)が検出されている。や  
 や楕円形を呈し、直径8mm、厚さ2.5mm~3mm、程  
 で中央に1mmの小孔がある。小孔の周囲には小孔  
 を取り囲むように径1.5mm~2mm程の楕円状の平  
 坦面をもつ。1号、2号土壌出土の中央に小孔を  
 持つ炭化物に比し、直径がやや小さく、厚さもな  
 い。またPL 8のスラッグ?は磁着せず、鉄以外の  
 ものが熱のため溶解したものと考えられる。全体  
 に気泡状の穴をもつ。

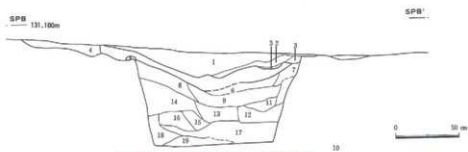
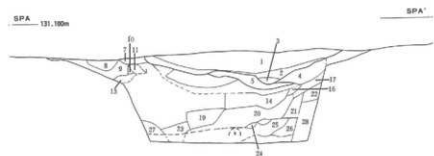
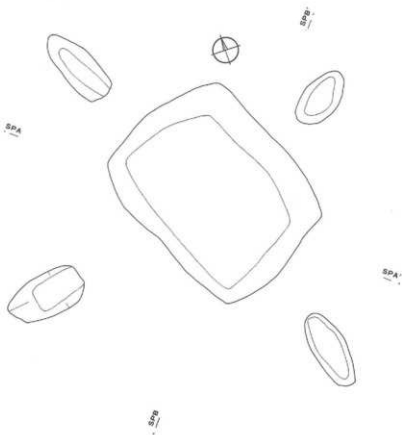
(4) 遺物、その他の分布

①釘、銭 わずかな出土である。釘2点以外は内  
 側十字形土壌内よりの出土。

②焼土 内側十字形土壌の北側、東側及び土壌外  
 北西側に分布する。

③炭化物 焼土と同様な分布を示すが、土壌より  
 外へ出ない。

④焼骨 焼土、炭化物分布範囲すべてに分布する。  
 これらは土壌南側先端部には分布しない。



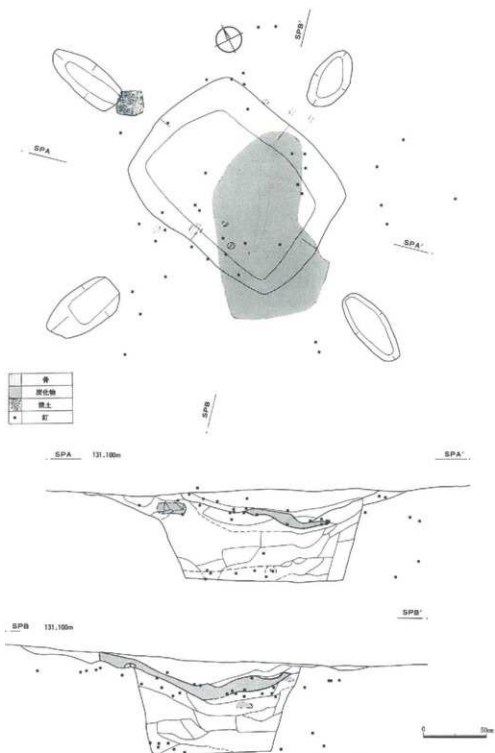
第11图 4号土壤平面图·土层堆积图

表5 4号土填層序表(SPA~SPA)

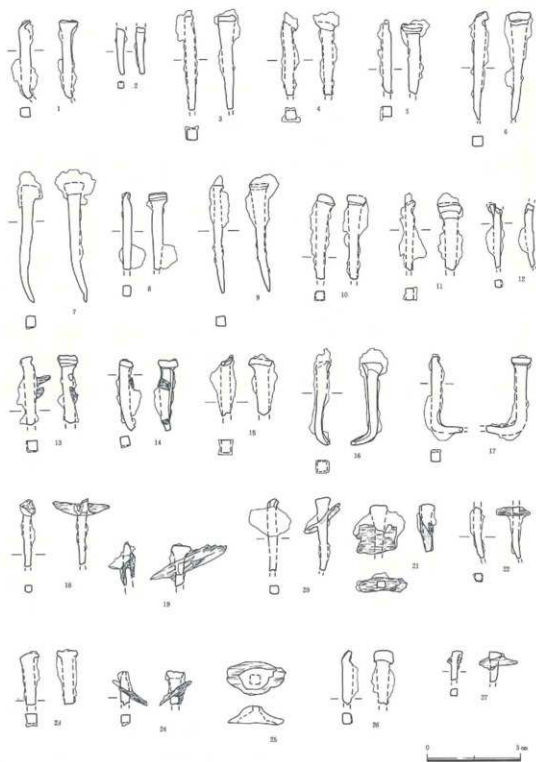
段 階 層序No	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	類別	Insulation	土 色			
1	II						OS-a 4層	
2	II		1	10YR5/3	黒	シルト	炭酸カルシウム15%	
3	II		2	10YR5/3	暗黒	シルト		
4				10YR5/3	暗黒		ロームアロック15%、炭化物7%	中今組
5	覆土						炭化物層	
6	覆土			10YR5/3	12.2H+黄緑		ロームアロック20%、堆土粒3%	中今組
7	覆土			10YR5/3	12.2H+黄緑	シルト	ロームアロック8%	
8	覆土			10YR5/3	12.2H+黄緑	シルト	ロームアロック1%、炭化物1%	
9	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック20%	中今組
10	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック8%	
11	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック15%	中今組
12	覆土			10YR5/3	黒	シルト	炭化物1mmアロック30%	
13	覆土			10YR5/3	黒	シルト		
14	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック15%	中今組
15	覆土			10YR5/3	暗黒		ロームアロック5%	中今組
16	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト		中今組
17	覆土			10YR5/3	12.2H+黄緑	シルト		中今組
18	覆土			10YR5/3	黒	シルト	赤色シルト2%、ロームアロック25%、炭化物2%	
19	覆土			10YR5/3+10YR5/3	黒+暗黒	シルト	ロームアロック10%	中今組
20	覆土			10YR5/3+10YR5/3	暗黒+黒	シルト	ロームアロック20%	
21	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック3%	中今組
22	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック10%	
23	覆土			10YR5/3+10YR5/3	暗黒+黒	シルト	ロームアロック20%	
24	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック20%	
25	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック10%、炭化物3%	
26	覆土			10YR5/3	黒			
27	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック20%	
28	覆土			10YR5/3	暗黒		OS-a 2層、ロームアロック3%	中今組

表6 4号土填層序表(SPB~SPB)

段 階 層序No	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	類別	Insulation	土 色			
1	II						OS-a 前層	
2	II		1	10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック20%、炭化物1%	中今組
3	II		2	10YR5/3	黒	シルト		中今組
4	IV	a	1					
5	覆土						炭化物層	中今組
6	覆土			10YR5/3	12.2H+黄緑	シルト	ロームアロック3%、炭化物10%	
7	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック15%	中今組
8	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック5%	
9	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック10%、炭化物3%	中今組
10	覆土			10YR5/3	暗黒		ロームアロック3%、炭化物3%	中今組
11	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック10%、炭化物5%	中今組
12	覆土			10YR5/3	黒		ロームアロック20%、炭化物1%	
13	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト	ロームアロック10%	
14	覆土							
15	覆土			10YR5/3	暗黒	シルト		
16	覆土			10YR5/3	暗黒		ロームアロック20%	
17	覆土			10YR5/3	黒	シルト	ロームアロック10%、炭化物3%	
18	覆土			10YR5/3+10YR5/3	黒+暗黒	シルト		
19	覆土			10YR5/3	黒			



第12図 4号土坑遺物分布図（釘・炭化物・焼土・骨）



第13图 4号土坑出土遗物

#### 4 4号土壌

##### (1) 位置・概要(第11図、附図)

調査区東側に位置する。隅丸方形の土壌の四辺の外側に楕円形の浅い掘りこみを有する。隅丸方形の土壌の南北長軸方向はN22.5° Eの方向をなす。規模は164cm×120cm、墳底部までの深さは46.1cm～58.9cm程である。土層堆積図によると壁面の立ち上がりは急であり、墳底部はほぼ平坦となる。また外側の4つの掘り込みは南北長軸方向のものは63～65cm×26～28cm、東西長軸方向のものはそれよりも若干小さい。深さはいずれも浅く5cm内側であるが、北側土壌のみ7.9cmとやや深い。

##### (2) 層序(第11図)

IVa層直上のロームブロックが混入する10～15cm程の盛土層を掘りこみ面としている。図⑤の炭化物層、図①、②、③のII層を除くすべての覆土は10YR4/3にぶい黄褐色～10YR3/2 黒褐の土にロームブロックが含有されている。その他炭化物等も含有されるが焼土、炭化物は極めて微量である。またロームブロックが含有されている割には覆土全体が極めてソフトである。

##### (3) 出土遺物(第13図、PL10)

釘 計47点出土している。残存状態がよいものを図示した。図14、15、23は2寸1分～2寸3分程の巻頭釘である。その他種別不明の2、25を除き図示したものはすべて角釘である。1寸2分～1寸3分(図18～20、22、27、39?、40)、1寸6分(図12、16、21)、2寸(図3、7、9)、2寸2分～2寸3分(図氏～6、8、10、11、17、23、26)の大五寸等がある。尚巻頭釘は2寸1分～2寸3分程である。木質部附着のものが多く。その他 覆土洗浄の結果、炭化物層、その他覆土からは木炭が圧倒的に多く、骨は13gと極めて微量であった。その他釘、玉砂利等がみられる。またPL10-32-34は7mm×4mm程、厚さ1.8mmの楕円形で扁平な円盤状を呈する炭化物である。中央に径1mm程の小孔がある。PL10-48は中国製染付磁器破片である。胎土、釉調より勝山館出土のものとはほぼ同じである。小破片のため細かな年代等は不明である。

##### (4) 遺物、その他の分布(第12図)

釘 平面的には全体に分布している。しかし、SPA-A'、SPB-B'でみるようにレベル的には炭化物層附近及び墳底部附近に二分される。

炭化物 PL9でみるように炭化材が炭化物層上部に6ヶ程見られた。大きいもので100cm×17cm、60cm×8cm等である。いずれも断面は円形を呈しており、表面加工等の痕跡はみられない。平面的には土壌内や南より及び土壌外に分布する。

#### 5 5号土壌

##### (1) 位置・概要(第14図、附図)

調査区北東側、1号土壌に隣接する。隅丸の十字形を呈する。長軸は2方向ある。南北長軸方向はN7° Wの方向となる。東西長軸方向はそれに対し東側に79°の角度である。規模は南北方向で153cm×35cm、東西方向で188cm×35cm程で東西方向がやや長い。深さは12cm程であり、壁面の立ち上がりはゆるやかである。

##### (2) 層序

IIIa層を掘り込み面としている。覆土は黒色炭化物層とIVbベースの覆土よりなる。

##### (3) 出土遺物(第16図、第17図、PL14)

①釘 47点出土している。残存状態がよいものを図示した。角釘は1寸6分(図7)の中5寸と2寸1分～2寸2分の大五寸(図4、6、9、10、11、12、13、21、27、28)、不明(図20)がある。巻頭釘は1寸6分(図8、22)、2寸1分～2寸2分(図16、23、24)、長さ不明(図1、2、9)がある。その他種別不明(図14、15、17、18、25、26)がある。いずれも熟をうけている。

②銭 20点出土している。残存状態がよく判読できるものを図示した。図32～36は北宋銭、37～39は明銭である。32は皇宗通宝、初鑄年1039年、33は明道元宝、初鑄年1032年、34は熙寧元宝、初鑄年1073年、35は聖宋元宝、初鑄年1101年、36は元祐通宝、初鑄年1086年、37は永樂通宝、初鑄年、1408年、38、39は洪武通宝、初鑄年1367年である。

③玉(PL12-67-67、83、玉?) 径4mm×3mmのもの5ヶ、3mm×2mmのもの8ヶが検出された。加熱により表面が変色しているが、本来は白色透明である。中心に0.8mmの小孔を持つ。玉?はすべて破損した状態であるが残存部より推定すると8mm×8mm程の大きさとなり中心に径1.5mm程の孔がある。割れ口は白色透明でガラス質である。中心部小孔には内部に炭化物が附着し真黒になっている。破片数は25点程になる。

##### ④その他(PL12-78、79、81、82ほか)

直径2mm、厚さ2mm程の円形のものが4点出土

している (PL12-78、79、81、82)。うち1点は (PL12-82) は表面に緑青を発しており銅製と考えられる。3号土壌検出のもの (PL8) と同じものと考えられる。他3点は表面が灰黒色を呈し、金属質のものである。これらは表面がやや粘質である。尚中央部に小孔はない。その他覆土洗浄により、木炭、焼骨、釘、銭、玉等が検出されている。やはり木炭が圧倒的に多い。またPL14-66の直径7mm、厚さ1.5mm程の円盤状を呈し中心に直径0.2mm程の小孔をもつ炭化物が出土している。植物質であり第4号土壌出土のものとはほぼ同様である。

(4) 遺物分布 (第15図)

釘 平面的には土壌中央部炭化物分布範囲を中心として分布している。レベル的には、炭化物層を中心とするがややばらつく。

銭 平面的には土壌中央部～やや北西寄りに集中的に分布する。レベル的には炭化物層上部、床面直上である。

玉 図上では8点であるが、このうち4点が玉で

他は銅製の円形のものである。従って出土した12点のうち8点は覆土洗浄により検出された。これらは平面的には銭と対称的に土壌中央部からやや南東よりに集中的に分布する。レベル的には炭化物層下部、床面直上である。

焼土 土壌東側部分に若干存在する程度である。レベル的にはほぼ床面及び壁面直上となる。

焼骨 土壌中央部が最も多く密である。レベル的には炭化物層を中心としている。

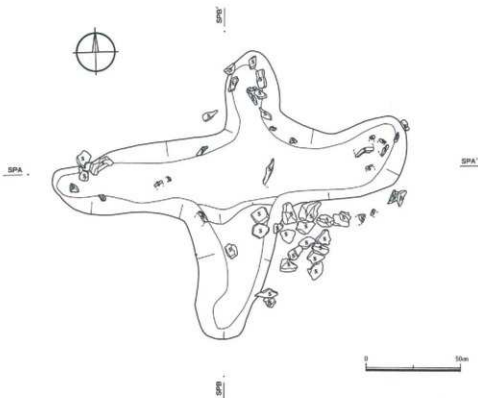
炭化物 土壌中央部からやや西側を中心として分布している。東側、南側には殆どみられない。レベル的には床面直上である。

礎 7cm×7cm大の礎が土壌南東側内側及び外側に20ヶ程分布する。レベル的には外側の礎は掘りこみ面IVa層直上、土壌内側の礎も床面直上となっている。尚礎分布箇所には炭化物の分布はなく、礎表面も加熱されていない。

6 6号土壌

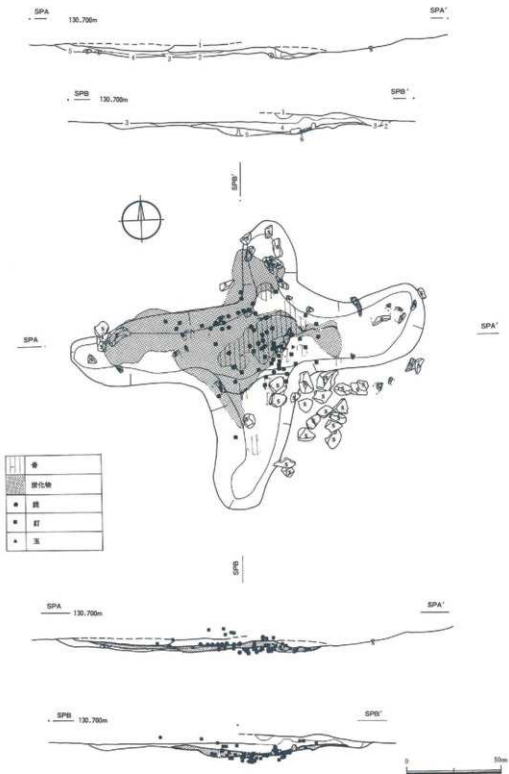
(1) 位置・概要

調査区西側に位置する。不整形の浅い掘りこ



第14図 5号土壌平面図





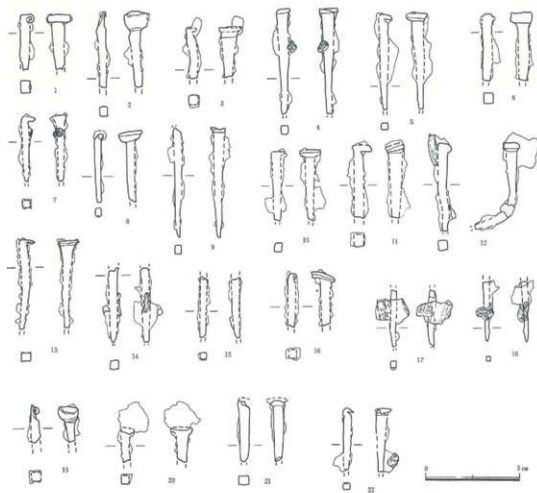
第15図 5号土壌・土層堆積図  
5号土壌遺物分布図(釘・銭・玉・炭化物・骨)

表7 5号土壌層序表(SPA~SPA')

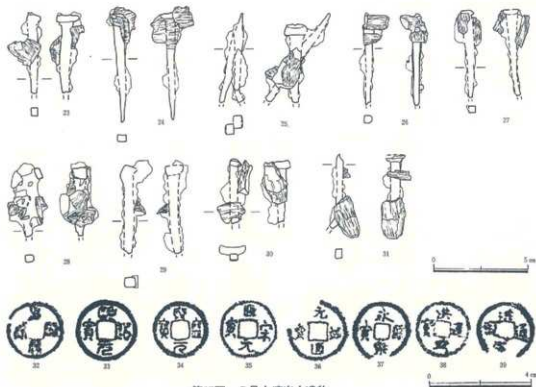
図 号 層序No.	層 基本層序	序 小区分	寸 細目	色		土 性	組 成	備 考
				Jnotation	土 色			
1	II		4	10YR5/1	黒褐	シルト	OS-a 上面に5%,炭化物3%	中中硬
2	覆土						黒色炭化物層	
3	覆土			10YR5/1	暗黒	シルト		
4	覆土			10YR5/1	黒		野トベース	
5	覆土			10YR5/1	黒	シルト	炭化物粒等まごれている	

表8 5号土壌層序表(SPB~SPB')

図 号 層序No.	層 基本層序	序 小区分	寸 細目	色		土 性	組 成	備 考
				Jnotation	土 色			
1	II			10YR5/1	暗黒	シルト	OS-a30%層	
2	II	2		10YR5/1	暗黒	シルト	OS-a 上面に5%,炭化物3%	中中硬
3	II	3		10YR5/1	暗黒	シルト	OS-a 1%,炭化物1%	中中硬
4	II	4				シルト		
5	覆土						黒色炭化物層	
6	覆土						黄土炭化物層(保証上)	



第16図 5号土壌出土遺物



第17図 5号土壌出土遺物

みの内側に隅丸の十字形土壌を有する。内側の十字形土壌は南北長軸方向がN18°Wを示し東西長軸方向はほぼ直交する。規模は外側の不整形形の掘りこみは直径約220cm、深さ2.6cm～8cm程であり、十字形土壌は南北方向で206cm×44cm、東西方向は230cm×46cmである。深さは25.3cm～15.3cm。尚十字形土壌南北、東側の先端は外側不整形形掘りこみ上端と一致する。又西端附近に径30cm、深さ5cmの浅い掘りこみあり。

(2) 層序 (第18図、表9、10)

IVa層を掘り込み面としている。その覆土は床面直上に炭化物主体層、それ以外は焼土粒、炭化物を含有した土となる。また覆土上部図①～③にはII層が堆積しており埋め戻しの状況はない。

(3) 出土遺物

①釘 16点出土している。残存状態のよいものを図示した。角釘は2寸1分～2寸2分(図1、2、6)の大五寸、巻頭釘の2寸1分～2寸2分(図3、4、5)である。

②銭 8点出土している。図7は北宋銭の元祐通宝で初鑄年は1086年である。他は殆ど破片あるいは

は判読不明である。

③その他 覆土洗浄により焼骨、木炭、米、イナキビ?、3号土壌と同様の金属?溶解物がある。

(4) 遺物分布

①釘・銭 内側十字形土壌中央部に分布する。レベル的には炭化物層を中心とする。

焼土 内側十字形土壌東西南北長軸方向端部に集中する。レベル的には床面直上となる。

炭化物 内側十字形土壌の中央部を中心として広がる。レベル的には床面直上となる。

焼骨 土壌中央部及び西側に分布する。レベル的には炭化物層主体となる。

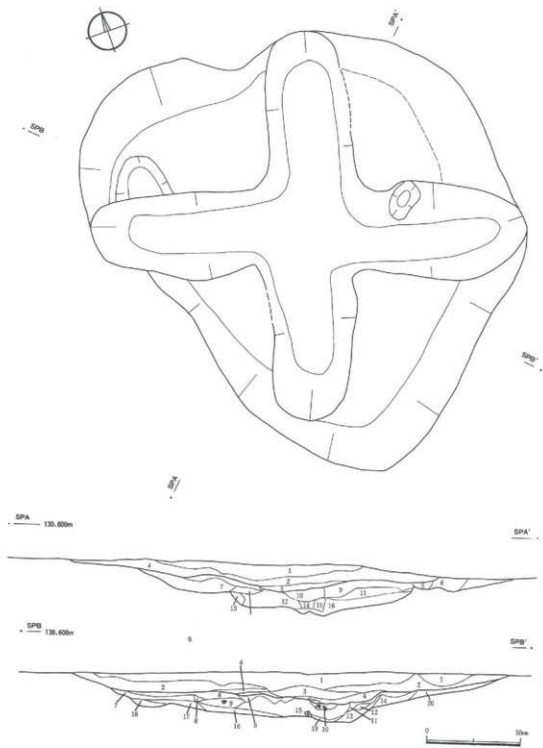
7 焼土 (第21図)

(1) 位置・概要

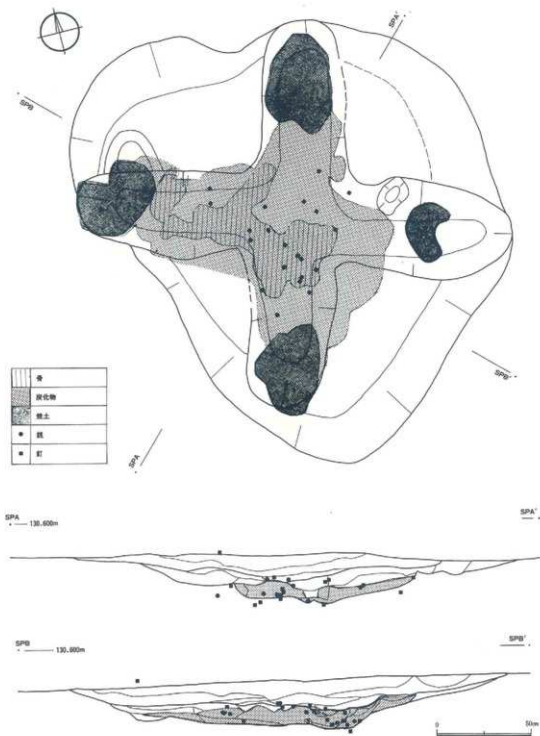
調査区北側5号土壌に隣接する。不整形を呈する。規模は最大幅で290cm×178cmである。

(2) 層序 (第21図、第22図)

掘りこみ面はIVa～IVb層上面である。覆土は焼土純層、IVa～IVbをベースとした土に焼土粒、明黄褐火山灰がまじる。焼土層が比較的しっかりしている事より流れ込みによるものではない。



第18图 6号土壤平面图·土层堆积图



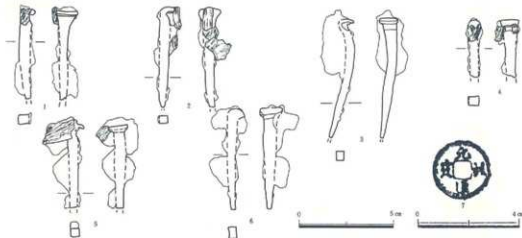
第19図 6号土坑遺物分布図(釘・鉄・炭化物・焼土・骨)

表9 6号土壌層序表(SPA~SPA')

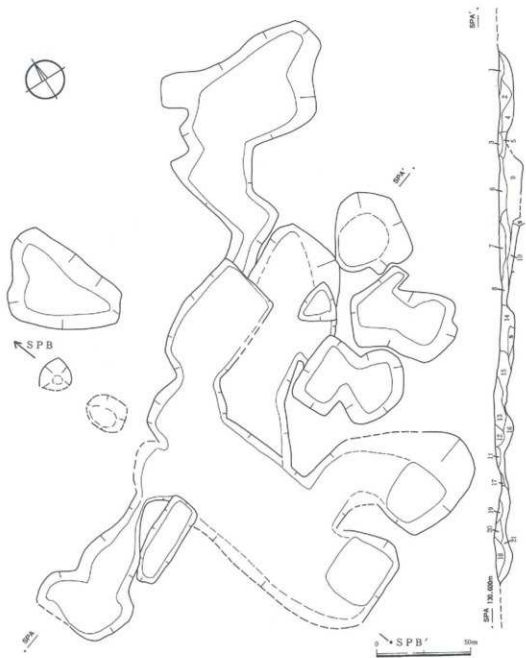
図層番号	層 序		類別	色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分		Jnotation	土 色			
1	II			10YR 5/1	暗黄	シルト	焼土粒 5%, 炭化物 5%, OS-a 5%	中々密
2	II		1					
3	II		2					
4	覆土			10YR 5/1	暗黄	シルト	炭化物 1%, 微少焼土粒 10%	
5	覆土			10YR 6/1	黄	シルト	粘層主体	
6	覆土							
7	覆土							
8	覆土							
9	覆土			10YR 5/1	黄	シルト	炭化物 5%, 粘層主体, 焼土粒炭化物	中々密
10	覆土			10YR 5/1	黄	シルト		
11	覆土							
12	覆土						炭化物層	
13	覆土			10YR 5/1	暗黄		OS-a, 火山灰 5%, 炭化物 1%	
14	覆土						粘層主体層, 炭化物 20% (黒色)	中々密
15	覆土						炭化物層	
16	覆土			10YR 5/1	暗黄		炭化物 5%	

表10 6号土壌層序表(SPB~SPB')

図層番号	層 序		類別	色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分		Jnotation	土 色			
1	II						OS-a	
2	II		1	10YR 5/1	黄	シルト	OS-a 5%	中々密
3	II		2	10YR 5/1	暗黄	シルト	OS-a 5%, C 5%	
4	II		3					
5	覆土			10YR 5/1	黄	シルト	C 5%	
6	覆土			10YR 5/1	黄	シルト	C 1%	
7	覆土			10YR 5/1	暗黄	シルト	OS-a 5%, C 5%	
8	覆土							
9	覆土			10YR 5/1	黄		微土炭化物層	
10	覆土						炭化物層	
11	覆土						炭化物層	
12	覆土						炭化物層	
13	覆土							
14	覆土							
15	覆土			10YR 5/1	暗黄		OS-a 5%	
16	覆土							
17	覆土							
18	覆土							
19	覆土							
20	覆土							



第20図 6号土壌出土遺物



第21図 焼土平面図・土層堆積図



第22図 焼土土層堆積図

表11 焼土層序表(SPA~SPA')

階層 層序%	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	細別	Jomeration	土 色			
1				10YR%	明赤褐		明黄褐色山灰	
2				10YR%	褐		焼土粒10%、黄a-1ペース	
3							炭化物3%、焼土粒、明黄褐色山灰10%(焼土層)	中々硬
4	黄	5	1	7.5YR%	褐	シルト	焼土粒10%	
5				10YR%	黒褐	シルト	焼土粒10%	
6							炭化物3%、焼土粒、明黄褐色山灰10%(焼土層)	中々硬
7				5 YR%+10YR%	明赤褐+明褐	シルト	焼土層	
8				10YR%	褐	シルト	焼土粒20%、黄a-1ペース	中々硬
9				10YR%	12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒1%、(黄a-1ペース)	
10				10YR%	12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒7%	
11				10YR%+5YR%	褐+明赤褐	シルト	焼土粒20%	
12				10YR%+焼土粒	褐	シルト	(30:30)混合層、基中の焼土層	
13				5 YR%+10YR%	黄+12.5Y+黄褐	シルト	炭層、焼土層(30%)	
14				10YR%+7.5YR%	褐+褐	シルト	全体として7.5YRとシルトにみえる、焼土粒20%	
15				10YR%	褐	シルト	焼土粒10%(7.5YRとみえる)	
16								
17							焼土層層	
18				5 YR%+10YR%	黄+明赤褐		明黄褐色山灰	中々硬
19				5 YR%	黄		焼土層層	
20				10YR%+10YR%	褐+明赤褐		明黄褐色山灰5%、焼土粒10%	中々硬
21				10YR%	褐	シルト	焼土粒7%、炭化物1%	中々硬

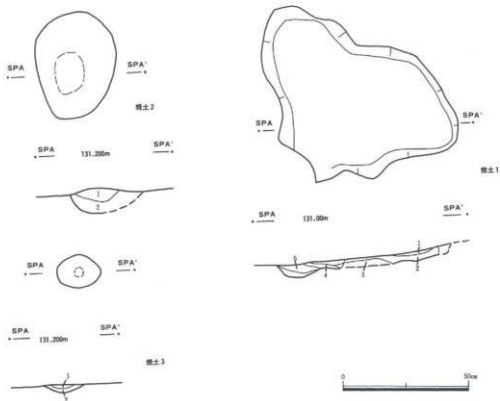
表12 焼土層序表(SPB~SPB')

階層 層序%	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	細別	Jomeration	土 色			
1				5 YR%	明赤褐		焼土層	
2				10YR%	12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒3%、炭化物1%	
3				10YR%	12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒1%、炭化物1%	
4				5 YR%	黄			
5				5 YR%+10YR%	黄+12.5Y+黄褐	シルト	炭層、焼土層(30%)	
6				5 YR%	黄			
7				10YR%+1.5YR%+10YR%	黄褐+明赤褐+明黄褐			
8				10YR%+2.5YR%+10YR%	黄褐+明赤褐+黄褐		焼土粒、炭山灰	
9				5 YR%+10YR%	黄	シルト	炭層、焼土層(80%)	
10								
11				10YR%+10YR%	褐+黄褐	シルト	焼土粒3%、明黄褐色山灰10%	中々硬
12				10YR%+10YR%	12.5Y+黄褐+明赤褐	シルト	明黄褐色山灰ペース、12.5Y+明赤褐20%、焼土粒10%	
13				5 YR%	明赤褐		焼土層	
14				5 YR%	明赤褐		焼土層	
15				10YR%	12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒20%、炭化物1%	
16				10YR%+10YR%	12.5Y+黄褐+12.5Y+黄褐	シルト	焼土粒、明黄褐色山灰3%	
17				10YR%	褐		焼土10%	
18				10YR%	12.5Y+黄褐		焼土10%	

表13 焼土1・2・3層序表

焼下 %	階層 層序%	層 序			色 調		土 性	組 成	備 考
		基本層序	小区分	細別	Jomeration	土 色			
1	1	焼土			10YR%+10YR%	暗褐+黄褐色山灰	シルト	焼土粒5%+黄褐色山灰30%	
	2	焼土			10YR%+10YR%	褐+黄褐色山灰	シルト	焼土粒3%+黄褐色山灰70%	
	3	焼土			10YR%+7.5YR、10YR%	黄褐色山灰+橙		黄褐色山灰が焼けた状態	
	4	焼土			10YR%	橙		山灰が焼けた状態	
	5	焼土			10YR%+7.5YR%	黄褐色山灰+橙			
	2	焼土			5 YR%	明赤褐		焼土層層	
	2	焼土			7.5YR%	褐		焼土粒3%	
	3	焼土			5 YR%	明赤褐		焼土層層、炭化物3%	中々硬
	2	焼土			7.5YR%	褐		焼土粒3%	中々硬





第23図 焼土平面図・土層堆積図

表14 1号～7号土壌土壌成分表

基 層	層	サンプル 総量(g)	成 分 (g)								
			骨	木炭	炭化率	種 子	鉄	スタップ	鉄	玉	備 考
1号土壌	土層アウエ	221,628	106.0	7,240	4.1	0.5	8.6		3.4	0.6	土層11.8
2号土壌	土層アウエ	816,524	120.8	848.0	0.3	1.0	12.5	0.9	3.9		土層1.0
	焼土炭化物	5,716	2.4	1.5	10.3			23			土層 3.3
3号土壌	焼土炭・床面直上・田	315,924	96.8	327.0				1.6	1.5	1.8	1.0
	10YR与黒褐色	6,584	7.8	39.0			0.5	1.4		1.8	
	10YR与暗褐色炭化物	9,856	315.3	380.8	1.8		21.3	4.8		1.4	土層 1.4
	焼土まじり・10YR与シロト	35,396	85.6	43.2	1.1		4.5				
4号土壌	炭化物層	86,400	3.88	0.9	1,420.8			12.14			骨? 0.1
	層土	297,000	9.4	6,288.9			3.2	15.8			陶磁器 1.2
5号土壌	床面直上	3,800	61.25	36.1			0.9	10.3		8	石 3.85
	10YR与黒褐色シルト	4,200	10.82	23.98			4.16				石 2.47
	層土	1,814	31.85	221.88	1.5	0.9	6.18				612.55, 土層 2.9
	炭化物	34,480	2.68	1			4.28		1.8	0.9	6196.3
	10YR与黒褐色	1,800	17.6	164.17			3.1				石 2.8
	10YR与黒褐色	31,600	296.42	416.48			(骨等) 4.35 41.13		16.75	10.04	612.6
6号土壌	10YR与暗褐色	50,488	89.8	426.7	16.0	0.3	5.0	1.0			土層 2.8
	10YR与暗褐色シルト	96,318	31.9	244.0	2.4		2.9				
	層土	169,884	1.5	12.7	0.4	0.9	1.1				土層 2.4
	床面直上・焼土炭化物	34,838	26.6	190.1	0.6		1.2				
7号土壌	層土	151,200		1.0							6179.094

表15 焼土成分表

焼土%	層	サンプル 総量(g)	成 分 (g)								
			骨	木炭	炭化率	種 子	鉄	スタップ	鉄	備 考	
焼土		250,200	82.3	41.2		0.9			1.1		
焼土1		37,782		3.5			1.0				
焼土2		340		1.0							
焼土3		196		1.0							

(3) 出土遺物(表14)

覆土洗浄により焼骨、木炭、銭等がみられる。この中では焼骨が最も多く含まれる。

(4) 焼土1(第23図)

調査区南側に位置する。IVb層を掘りこみ面としている。規模は75cm×70cm、深さは5cm程と浅い。覆土は明黄褐火山灰と焼土粒の混層である。覆土洗浄により木炭、鉄片が少量検出された。

(5) 焼土2(第23図)

調査区南側に位置する。不整形形を呈する。IVb層を掘りこみ面としている。規模は42cm×31cm、深さは11cmである。覆土洗浄の結果木炭が微量検出された。

(6) 焼土3(第23図)

調査南側に位置し焼土2に隣接する。IVb層を掘りこみ面とするが規模は17cm×13cm程である。覆土洗浄の結果木炭が微量検出されている。尚焼土2、焼土3は焼土純層の堆積がある事等より、流れこみによるものではないと考えられる。

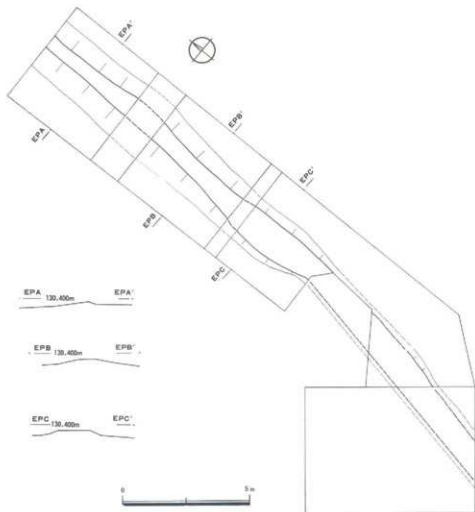
8 旧道跡

(1) 位置・概要(第24図、附図)

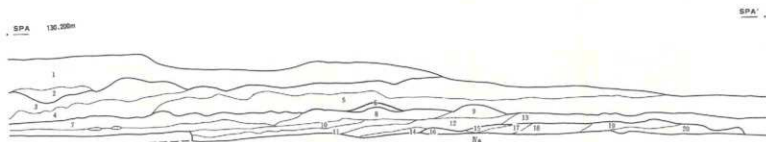
調査区内西側を南北に縦断する。道路面はゆるい半円状の盛り上がりとなる。N1.5°Eの方向である。規模は調査区内で21.5m×4.5mである。

(2) 層序(第25図①、④、⑤、第26図1)

25図①は旧道跡を北東から南西へ斜めに横断し



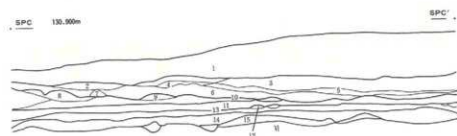
第24図 旧道跡平面図



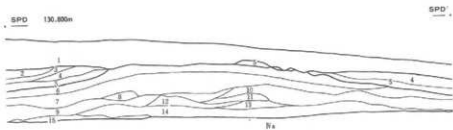
土層堆積 ①



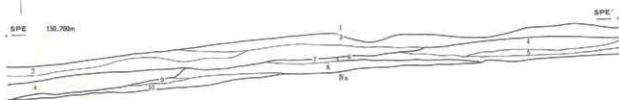
土層堆積 ②



土層堆積 ③



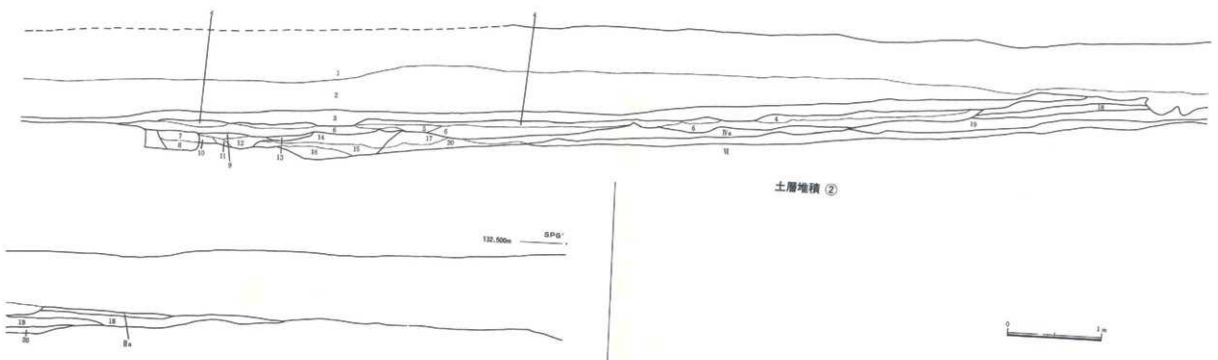
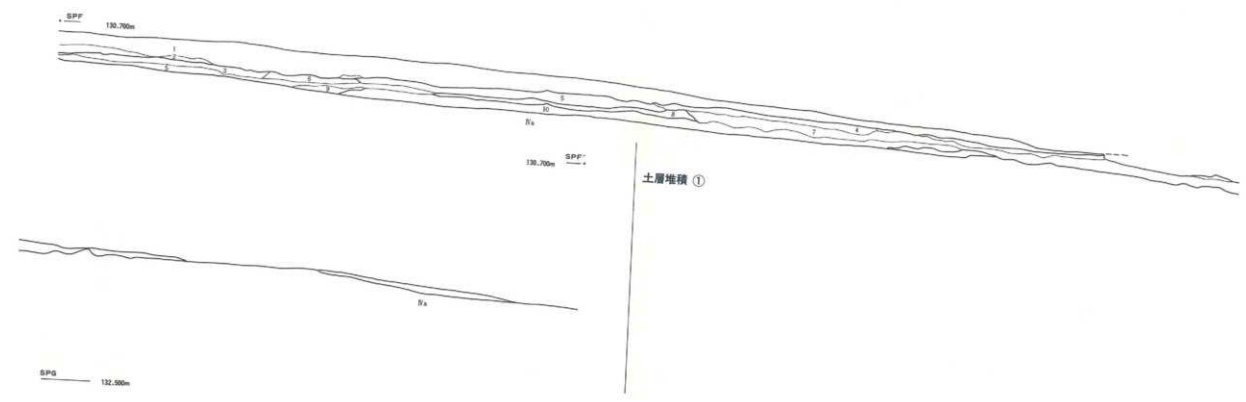
土層堆積 ④



土層堆積 ⑤



第25図 旧道跡・その他土層堆積図



第26図 旧道跡土層堆積図

土層堆積図である。図15～20が道路面となる。中央部はやや平坦な面をもち、左右両端はやや下がる。II層直下である。図15～20はいずれも砂礫層でありやや堅致である。

25図④は25図①と同様旧道跡を北東から南西へ横断した土層堆積図である。図6が道路面となる。半円状を呈し、中央部に若干の平坦面を作る。左右両端はやや下がるが下端との明瞭な段差はない。また左右両端には5のOS-a純層が直上に堆積する。25図⑤は旧道跡を北西から南東へ斜めに横断した土層堆積図である。図7、8が道路面となり平坦面がある。左右両端の左は図4と接するところであり、やや角度をもって下端との段差をつくる。右端はゆるやかに下向きであり下端との明瞭な段差はない。図7、8は色調はII層に類するがやや密で堅致である。26図①は旧道跡を北西から南東へ斜めに横断した土層堆積図である。調査区南西端である。図8が道路面となる。中央部に広い平坦面をつくる。右端は7と接しやや角度をもって下端との段差をつくる。右端はゆるやかに下端に至る。図8～10が道路形成層である。II層に比し

色調は明るく砂礫がまじる。これら旧道跡道路面はいずれもII層、OS-a純層直下である。いずれも道路面中央部が平坦面となる。左右両端は下端との明瞭な段差はない。側溝、遺物も検出されなかった。

## 9 7号土壌

### (1) 位置・概要

調査区西端に位置する。長軸2.5m、短軸1.7mの不整隅丸方形を呈し、南側に幅70cm程の舌状張り出しを持つ。長軸方向東側壁面は大きく2段の段差を持つ。長軸はN58.5°Wの方向である。深さは土壌底底部までは55cm～60cm、舌状張り出し部分は8cm～10cmである。

### (2) 層序 (第27図、表21)

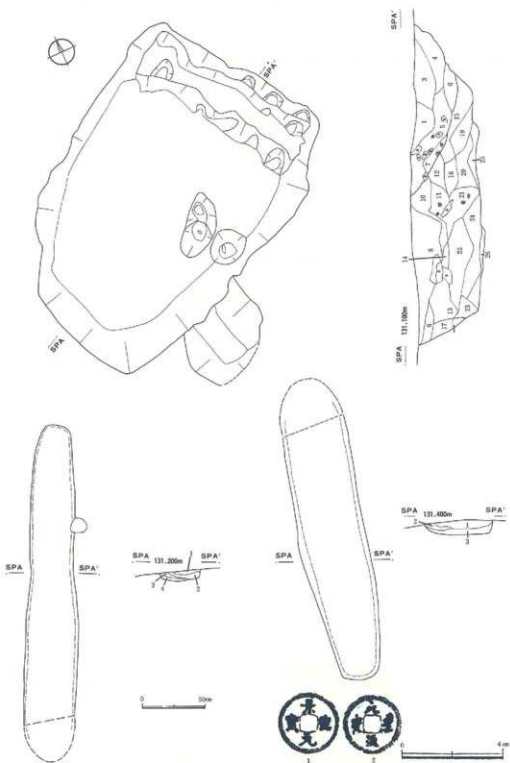
覆土は含有物等より4つのブロックに分けられる。図1～7、図8、図9、10、図11～25である。図1～7は10YR4/3～10YR5/3にぶい黄褐シルトに玉砂利、円礫等が混入しやや粗である。図8も同様な状態であり粗である。図9、10はIVa層、IVb層の混層となっている。図11～25は10YR5/3にぶい黄褐～10YR6/6明黄褐のやや明るい色調

表16 旧道跡層序表(第25図①)

図 号	層 序	基本層序	小区分	類別	色 調		土 質	組 成	備 考
					Janotation	土 色			
1	I'								礫土
2	I'		1						礫土
3	I		1	10YR5/3	暗黄	シルト	OS-a 3%		
4	I		1	10YR5/3	暗	シルト			
5	I		2	10YR5/3-5	12.5b+黄褐	シルト	最少粘質層 5%		堅致
6	I		3	10YR5/3	12.5b+黄褐	シルト	最少粘質層 5%		やや粗
7	II			10YR5/3	灰黄褐	シルト			やや粗
8	II		1	10YR5/3	12.5b+黄褐	シルト	最少粘質層 7～10%		やや粗、堅致
9	II		2	10YR5/3	12.5b+黄褐		最少粘質層、砂粒		堅致
10	II		3						
11	II		4	10YR5/3	暗	シルト	OS-a 3%		
12	II		5	10YR5/3	暗	シルト	最少粘質、砂粒 5%		やや粗、堅致
13	II		6	10YR5/3	灰黄褐	シルト	暗		やや粗
14	II		7	10YR5/3	暗黄	シルト			
15	III		1				最少粘質層、砂粒層		密
16	III		2	10YR5/3	12.5b+黄褐		最少粘質層、砂粒		堅致
17	III		3	10YR5/3	12.5b+黄褐		最少粘質層、砂粒		密、堅致
18	III		4	10YR5/3	12.5b+黄褐		砂粒 10%		やや粗
19	III		5	10YR5/3	12.5b+黄褐	シルト	砂粒 20%		
20	III		6	10YR5/3	暗		砂粒+最少粘質層		やや粗

表17 旧道跡層序表(第25図②)

図 号	層 序	基本層序	小区分	類別	色 調		土 質	組 成	備 考
					Janotation	土 色			
1	I			10YR5/3	12.5b+黄褐	シルト	最少粘質層		
2	I		1	10YR5/3	黄褐	シルト			
3	II								
4	II		1	10YR5/3	暗	シルト			
5	II		2	10YR5/3					
6	II		3	10YR5/3	12.5b+黄褐	シルト			
7	III	a			褐色				
8	III	b		10YR5/3	黄褐		火山灰		



第27图 7号土壤平面图·土层堆积图·沟1·沟2平面图·土层堆积图

表18 旧道跡層序表(第25図③)

(2区東西北壁)

区 画	層	層	厚	傾斜	色		土 性	組	成	備 考
					基本層序	小区分				
1	I				10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 30% 混入10%		藍
2	II		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	②より灰緑色+		今中層
3	II		2		10YR5/2	灰黄緑				今中層
4	II		3		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 20%、粘土②		今中層
5	II		2					OS-a純層		藍
6	II		4		10YR5/2	藍		粘土 20%		今中層
7	II		5		10YR5/2	藍		粘土 20%		今中層
8	II		3		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 20%		今中層
9	II				10YR5/2-1	藍-藍	シルト	砂粒混		今中層
10	II				10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 20%		今中層
11	III	a				黄				今中層
12	III	b				黄緑		火山灰		今中層
13	III	b	1		7.5YR5/2	こげ茶	シルト			今中層
14	III	c			7.5YR5/2	暗茶	シルト	今中層混(赤味なし)		今中層
15	V				7.5YR5/2+10YR5/2	藍+黄緑	シルト	ロームブロック型和層		藍

表19 旧道跡層序表(第25図④)

(10区南北東壁)

区 画	層	層	厚	傾斜	色		土 性	組	成	備 考
					基本層序	小区分				
1	I				10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 20%		藍
2	II		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%		今中層
3	II		1		10YR5/2+10YR5/2	黄緑	シルト	赤層 2%		今中層
4	II		2		10YR5/2	暗茶	シルト	赤層 15%		今中層
5	II		3					OS-a純層		藍
6	II		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 20%+10%、粘土+中②		今中層
7	II		2		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 20%+10%、粘土、②より赤層粒が細かい		今中層
8	II		3		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 20%		今中層
9	II		4		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%、目がある、粘土+中1		今中層
10	II		5		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%、②-①の中混層		今中層
11	II		6		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%、目がある、粘土+中1		今中層
12	II		7		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%、②より赤+		今中層
13	II		8		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%		今中層
14	II		9		10YR5/2-1	12.0Y-黄緑+12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%+中1、粘土よく混(赤味として20-12%)		今中層
15	II		10							今中層

表20 旧道跡層序表(第25図⑤)

10区北壁

区 画	層	層	厚	傾斜	色		土 性	組	成	備 考
					基本層序	小区分				
1	I				10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2% 粘土 2%		整地
2	I		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2% 粘土 2% ②より今中		整地前
3	I		2		10YR5/2-1	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 赤層 2%		藍
4	II		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 赤層 2%		今中層、整地
5	II		1		10YR5/2	藍	シルト	②よりやや暗い		今中層
6	II		2					OS-a純層		藍
7	III	1	1		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	赤層 2%、10%		整地後
8	III	2	10YR5/2		藍		シルト	粘土 赤層 2%		今中層
9	III	3	10YR5/2		灰黄緑		シルト	粘土 赤層 10%		今中層
10	III	4	10YR5/2		灰黄緑		シルト	今中層		今中層

表21 旧道跡層序表(第26図①)

壁東西

区 画	層	層	厚	傾斜	色		土 性	組	成	備 考
					基本層序	小区分				
1	I				10YR5/2	12.0Y-黄緑		粘土含む		今中層、
2	I		1		10YR5/2	12.0Y-黄緑		赤層 20%、川砂		今中層
3	II		10YR5/2		暗茶		シルト	OS-a 赤層 3% 灰化物 1%		今中層
4	II		1		10YR5/2	暗茶	シルト	赤層、OS-a 2% 灰化物 1%		今中層
5	II		2		10YR5/2+10YR5/2+川砂	灰黄緑、12.0Y-黄緑	シルト	(暗茶) それぞれ混成となる		今中層
6	II		3		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト			今中層
7	II		4		10YR5/2	12.0Y-黄緑	シルト	粘土 砂 1%		今中層
8	III		1		10YR5/2	藍		赤層 2% 川砂		今中層
9	III		2		10YR5/2+10YR5/2	12.0Y-黄緑、灰黄、藍		粘土 砂 層、川砂		今中層
10	III		3		10YR5/2	暗茶	シルト	粘土 砂 2% 土層がわり		今中層

でIV層が主体となっている。ロームブロック、炭化物が微量混入する。しかしこの附近に堆積するOS-a等の火山灰が覆土に全く含有されていない。またその覆土の組成も比較的単純なものよ

うである。

## 10 溝

## (1) 溝1

調査区東端、鏡土1に隣接する。長軸約270cm、

短軸42cm程であり、隅丸長方形を呈する。長軸方向はN18.5° Wである。深さは7cm程と浅い。覆土にはロームブロック、OS-a等が含有され、やや密である。

(2) 溝2

調査区東端、鏡土2、鏡土3に隣接する。長軸約160cm、短軸34cm程であり、隅丸長方形を呈する。長軸方向はN29° Wである。深さは8cmである。覆土にはロームブロックが含有し堅致である。溝1、溝2とも掘り込みはIVb層上面である。

11 小ピット群 (附圖)

調査区東端鏡土2、鏡土3、溝1、溝2附近を点在する。いずれも直径3~4cm、深さ10cm程である。掘り方をたない。

12 その他遺物等 (第27図、PL16)

調査区遺構外より釘、銭が出土している。第27図1、2はいずれも北宋銭で1は景德元宝、初鑄年は1004年、2は元祐通宝、初鑄年1086年である。その他北宋銭の咸平元宝、初鑄年998年がある。鉄製品では釘のほかPL16-9の長さ5.3cm、厚さ3.5cm程の板状のものが出土している。

表22 調査区南端層序表(第26図②)

図 号	層 序			色		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	細別	Jinotation	土 色			
1	I'						ロームブロック+漆	盛土
2	I'		1				ロームブロック+褐色土	盛土
3	I			10YR5/	にじみ-黄褐色		鉄分やや多い	
4	II			10YR5/	暗褐色		OS-a主体層	
5	II		1	10YR5/～5/	暗褐色、黄褐色		鉄分少な	やや密
6	II		2	10YR5/	暗褐色	シルト		やや密
7	覆土			10YR5/	にじみ-黄褐色	シルト	ロームブロック20%	やや密
8	覆土			10YR5/	にじみ-黄褐色		ロームブロック20%	
9	IV	a	1	10YR5/～5/	黄褐色-褐色	シルト	炭化物1%	やや密
10	覆土						①よりもロームブロック20%比率多い、②よりも炭化物1%	
11	覆土						②よりもロームブロック比率少ない12%位	やや密
12	覆土			10YR5/	暗褐色		黄褐色山灰3%	
13	IV	a	1	10YR5/～5/	黄褐色-褐色	シルト	炭化物1%・10YR5/10%	やや密
14	覆土							
15	覆土							
16	覆土			10YR5/ + ローム	暗+ローム		炭化物3%・ロームブロック20%とよれている	
17	IV	a						
18	IV	b	1					
19	IV	c						
20	V							

表23 溝1層序表

図 号	層 序			色		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	細別	Jinotation	土 色			
1	覆土			10YR5/	にじみ-黄褐色	シルト	最少ロームブロック5%、OS-a1%	やや密
2	覆土			10YR5/	にじみ-黄褐色	シルト	OS-a1%	やや密
3	覆土			10YR5/	暗褐色			やや密
4	覆土			10YR5/ + 10YR5/	にじみ-黄褐色+黄褐色			やや密

表24 溝2層序表

図 号	層 序			色		土 性	組 成	備 考
	基本層序	小区分	細別	Jinotation	土 色			
1	覆土			10YR5/～5/	にじみ-黄褐色+黄褐色	シルト	最少ロームブロック5%	密致
2	覆土			10YR5/	にじみ-黄褐色	シルト	最少ロームブロック5%	密致
3	覆土			10YR5/ + 10YR5/	暗+黄褐色	シルト	密C5% + 黄褐色シルト10%	密致



表25 7号土壌層序表

層序No	基本層序	小区分	細別	色		土性	概	法	備考
				Jenotation	上 色				
1				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			土砂付混入
2				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			土砂付20%
3				10YR5/	褐	シルト			中々重
4				10YR5/	褐	シルト			中々重
5				10YR5/	褐	シルト			中々重
6				褐色s1+HYR5+HYR5	褐色s1s1+褐+明黄褐色	シルト			中々重
7				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			中々重
8				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			中々重
9	M	a							
10					黄色シルトs1p+黄褐色s1s1(厚さ10cm)u-1				
11				10YR5/	暗褐	シルト			黄褐色s1s1混入
12				10YR5/	褐	シルト			10YR高ロームブロック3%
13				10YR5/	褐	シルト			整理よごれている
14				10YR5/	暗褐	シルト			ロームブロック3%
15				10YR5/	明黄褐色	シルト			中々重
16				10YR5/	黄褐色	シルト			重
17	M	a	1						中々重
18									ソフトローム
19				10YR5/	明黄褐色	シルト			整理、炭化物1%
20				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			よごれている
21				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			ロームブロック3%
22				10YR5/	明黄褐色	シルト			炭化物1%程度
23				10YR5/	明黄褐色	シルト			ローム程度
24				10YR5/	12.5a1-黄褐色	シルト			ロームブロック10%
25				10YR5/	明黄褐色	シルト			整理よごれている
26				10YR5/10YR5/	明黄褐色+12.5a1-黄褐色	シルト			12.5a1-黄褐色30%

### Ⅲ まとめ

#### (1) 1～3、5、6号土壌

これらはいずれも隅丸の十字形を呈する土壌であるが、そのうち外部に不整形又は不整形円の廻りこみを有するもの(2号、3号、6号)と有しないもの(1号、5号)がある。いずれもこの十字形土壌平面形はほぼ南北方向とそれに直交するほぼ東西方向の2本の浅い溝よりなる。

これらの覆土は焼土、炭化物、焼骨を主体としている。いずれの土壌も十字形土壌を中心として分布し、その堆積は土壌断面又は床面直上からのものである。また覆土直上にはOS-aが厚く被覆し、埋め戻しの痕跡をもたず、封土を有しない事より、これらの土壌は火葬施設であると考えられる。焼土の分布をみると1号、2号、6号では十字形の土壌内端部にありいずれも純層である。またその堆積が床面直上である事より、土壌内に火を入れた場所と考えられる。

遺物は釘、玉、数珠、炭化米、イナキビ?等が見られる。釘では木炭化物附着のものが多く、土壌内に遺体を修めた木棺の存在を想定させる。釘の分布状態は散発的であるが、十字形土壌より外にはみ出すものは殆どない。外部に不整形形の掘

りこみを有しない1号、5号では十字形土壌内の東西方向に分布する。この事については東西方向に木棺が置かれた状態を考えねばならない。釘の分布のみで木棺の大きさを推定するにはかなり困難さが伴う。しかしして木棺の大きさを推定するなば、釘の密集点の幅、高さより検討しなければならぬ。これらを検討した結果木棺の推定寸法は1号では長さ124cm×幅35cm×厚さ15cm、5号では長さ85cm×幅69cm×厚さ14cm程となる。尚火葬により木棺上部の釘はレベルが下がるため、木棺の厚さは30cm～50cm程あったと思われる。木棺の形状は直方体と考えられる。銭では北宋銭が主体をなし他に明銭、唐銭が少量出土している。出土状況を見ると1号では6枚、2号では2枚、3号では7枚、3枚がそれぞれ重なり、附着した状態であった。これらはそれぞれ一単位としてこれらの土壌に副葬されたと考えられる。しかし個々の土壌における銭の一単位の枚数、出土総数よりみて特に6の倍数等6を意識したものととして統一されているわけではない。従って六道銭というよりも冥銭と考えられる。玉は5号で検出された。いずれもガラス質である註1。そのうち破損状態

となっている径8cmの玉の中に1/4程残存しているものがあつた。観察すると内部小孔は上下、左右にあり、中央部で交わらせていた。これは辻玉といわれた念珠などの緒の交点に用いる註2という。その他スラッグ状のものについては熱により溶解したガラスである註1事が判明した。また中央に小孔を持つ円形炭化物は各土層で出土している。これにはほぼ球形のもの、扁平なもの2種類があり1号で5点、2号、3号、5号では1点ずつ検出されている。表面には塗りが施されており、木製の数珠註2と判明した。また3号で1点、5号で4点出土している青銅製の仁丹大の球形遺物については中央部に小孔等もなく用途が不明である。また米、イナキビ?は表14にみられるように各土層に少量ずつ検出されている。これらはフローテーションにより検出されたため、その分布箇所は明確でないが、いずれも炭化物、焼土、焼骨層中に見られる。銭、玉の数珠、青銅製球形遺物のほかこれら米、イナキビも葬送に伴う遺物と考えられる。

さて当該地区北東に隣接して約620基からなる中世の和人の墓である夷王山墳墓群がある。ここは昭和27年、昭和39年、昭和56年、昭和57年計32基の調査により土葬墓、火葬墓等が検出されたところである。このうち火葬墓については註3①旧地表面位置に焼骨、炭化物層がありその下位に土層が設けられる。②封土である墳丘下に焼骨を埋納する。③旧地表面下に浅い粘土層を設け焼骨を入れた木棺を埋納する。この3者があるがいずれも積極的な火葬施設は検出されなかったところである。これら1～3、5、6号土層は掘り込み面がIVa層上面である事、覆土直上にOS-aの堆積がある事が特徴である。勝山館ではIVa層直上のIII層が遺構掘り込み面となっているが、その層は人工的堆積の整地面である事を考えると当時の地表面はIVa層と考えられる。またIII層直上のII層にはOS-aの純層もみられる。これらの事によりこれら土層と勝山館跡とは同時期であると考えられる。また当該調査区に隣接する夷王山墳墓群が勝山館跡と同時期である事、墳墓構築後にOS-aの堆積がみられる事、出土銭は北宋銭が主体である事より、これら1～3号、5号、6号土層と夷王山墳墓群は同時期と考えられる。以上遺構掘り込み面、出土遺物、地理的接近性より1～3号、5

号、6号土層において勝山館に住んでいた人々を火葬し、その後夷王山墳墓群火葬墓への埋納を行ったと考える事ができる。

またこれら1～3、5、6号土層と同時期である夷王山墳墓群にて想定された木棺と当該1号、5号土層にて想定した木棺の大きさを比較すると、昭和56年調査註の土葬墓内の木棺が95cm×65cm×35cm～85cm×50cm×30cmであり、1号、5号にて想定した木棺の大きさに非常に近い。これら土葬墓は屈葬である事より棺の大きさから考えると1号、5号土層では屈葬の状態で遺体を木棺に入れ火葬した可能性がある。

#### (2) 4号土層

IVa層上面にロームブロックが混入する薄い層を掘りこみ面とするが、覆土直上にOS-aの被覆、北宋銭の出土により他土層と同時期である。土層覆土は上部炭化物層と土層内ロームブロックと腐植土のソフトな混層に大きくわけられる。土層内部より釘の検出もあり、木棺の存在の可能性を思わせるが、釘が散逸している状態であり、又内部に木棺を示唆する色調の異なる土層も検出されない。これについては上部からの土圧により棺がつぶされた可能性もある。又焼骨が一切検出されなく微量の骨粉が検出される事より土葬墓の可能性もある。尚米、イナキビ?等の検出が他土層と同様にある。上部炭化物層中上面には玉砂利もみられることより何らかの葬送儀礼を行なったのかも知れない。

#### (3) 焼土

掘りこみ面より1～6号土層と同時期である。形状、土層堆積状況より何回かの重複が考えられる。焼骨が若干出土しており火葬施設とも考えられるが、その他遺物では木炭が若干出土するのみで性格がよくわからない。

#### (4) 焼土1～3、溝、小ピット

調査区南側に位置し、それぞれが隣接している。この付近では調査区全域にみられるIVa層の堆積が極めて薄く、殆ど堆積しない箇所もある。そのためこれらの遺構はIVb層上面を掘りこみ面としている。このためこれらの遺構は1～6号土層と同時期と考えられるが、やや古い時期の可能性もある。焼土1～3では覆土に焼骨等はなく木炭、鉄が微量検出されるのみである。これら焼土1～3、溝、小ピットはおそらくセットで機能して

いたと考えられる。溝底底部に小ピットがある事よりこれらの溝は火を使用した時に風除けの目的で作った柵の掘り方と考えられる。小ピット群もこれと同様なものと考えられる。しかしここで風除けを作り火を使用した目的、用途は不明である。

#### (5) 旧道跡

II層を主体とした土層により道路面が作られて

おり、1～6号土壌、焼土1～3、溝、小ピットよりはるかに新しく江戸期の所産と考えられる。またこの旧道跡は夷王山へ向いており、夷王山頂上の夷王山神社への御代参道路かとも考えられるが、調査面積が少なく明確でない。また7号土壌とは重複関係にあるが、7号土壌は本旧道跡を掘りこんで作られており、7号土壌は新しい。

## IV 総括

当地区は勝山館が存続した期間（15～16世紀）夷王山墳墓群火葬墓への遺体の埋葬に伴う火葬場として機能したようである。

遺物では各土壌より銭、玉、数珠、米、イナキビ？が検出されている。これらは遺体に木棺を入れ火葬する際に木棺内あるいはその周囲に副葬したようである。当時葬墓に対する物の副葬と同様に火葬の際にもこのような習俗があったと考えられる。

夷王山墳墓群では現在までに622基の墳墓が確認されている。しかし昭和56年発見の41基の土葬墓、昭和57年調査時における第IV地区74号墳の4基の葬墓の存在等マウンドが発見しづらい墳墓が多々あった。これらを考慮に入れると夷王山墳墓群における墳墓数は更に増大すると考えられる。

これら大規模な葬墓を営むには葬送儀礼等に従事した三昧聖註4等が存在していた可能性がある。

註1 北海道開拓記念館 赤松守雄、山田哲郎、小林幸雄氏の御教示を得た。誤りは筆者の責である。

註2 平凡社「世界大百科辞典」

註3 「夷王山墳墓群」上ノ国町教育委員会1984年

註4 仏教民俗学大系2巻「聖と民衆」中「近代三昧聖考」上別府茂によると「三昧聖とは葬送に従事した下層庶民仏教者（＝聖）をいい、死骸の火葬、土葬、及び墓地の管理などをおもなる職掌とした。」とある。



# 图 版



調査区



1号土壌内焼土検出状況



4号土壌炭化材出土状況







5号土壇遺物出土状況



5号土壇遺物出土状況



焼土土層堆積状況



旧道跡  
土層堆積状況







確認状況



遺物出土状況

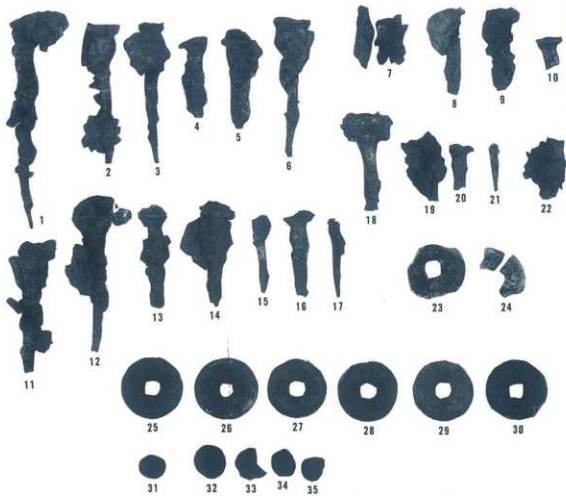


遺物出土状況



焼土検出状況





遺物出土状況



遺物出土状況拡大



遺物出土状況拡大(玉等)

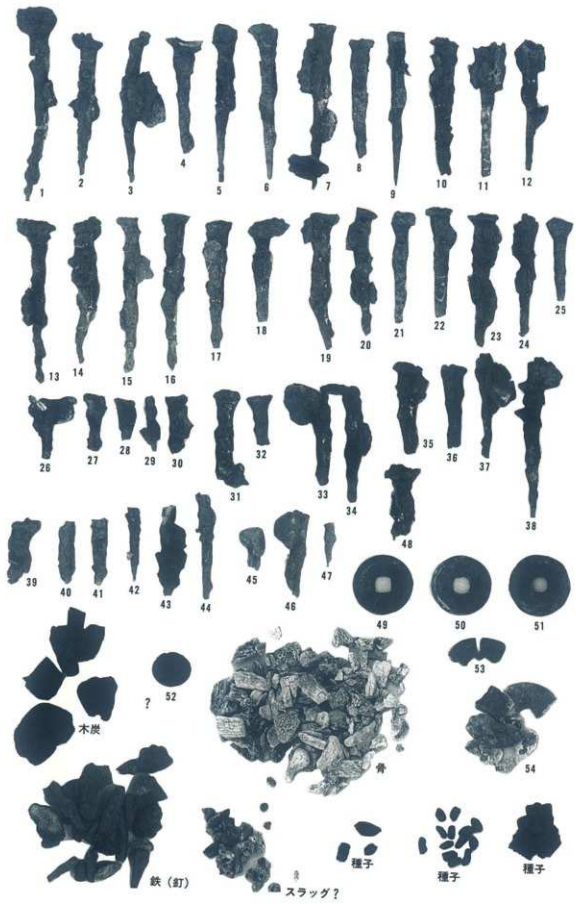


遺物出土状況拡大(銭等)



調査終了全景







遺物出土状況（骨）

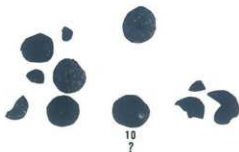


遺物出土状況（坑底部炭化物）



遺物出土状況拡大（骨等）





種子







遺物出土状況 (炭化材)  
土層遺積状況



遺物出土状況拡大 (炭化材)



遺物出土状況拡大 (炭化材)



調査終了全景





骨



土壇中央部遺物出土状況

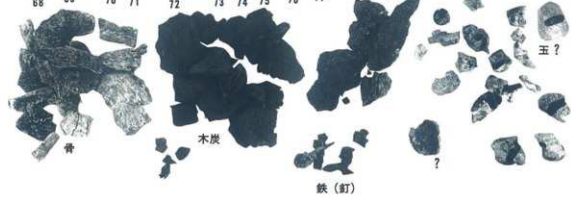
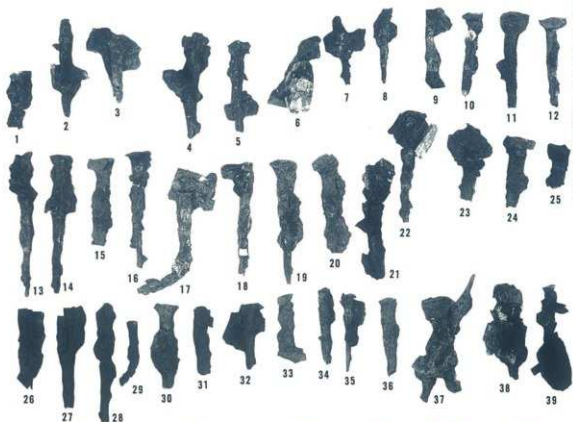


遺物出土状況拡大(釘・銭・玉・骨等)



調査終了全景





土壇中央部遺物出土状況

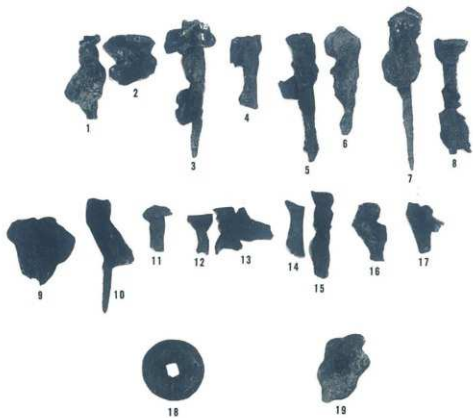


遺物出土状況



調査終了全景





骨



木炭



種子1



種子2



鉄（釘）



スラッグ？



7号土墳



7号土墳土層堆積状況



旧道跡



調査区近景



調査区中景



焼土出土遺物(骨)



1

焼土出土遺物(釘)



スラッグ?



焼土出土遺物(木炭)



2

3

調査区内出土遺物



7号土墳出土遺物



調査区内出土遺物



12

調査区内出土遺物



13

14

15

調査区内出土遺物



---

## 夷王山墳墓群 II

—駐車場造成工事による緊急調査—

発行 上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町大留100

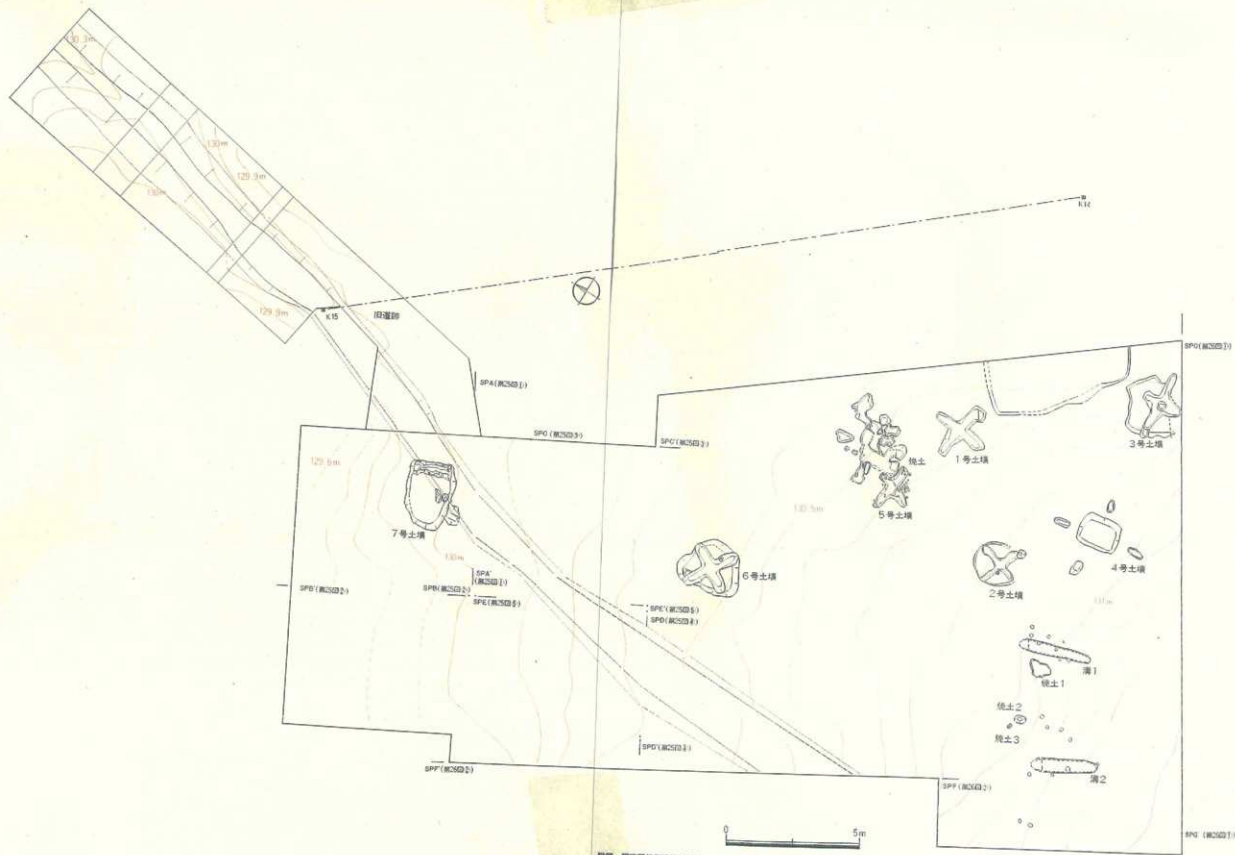
印刷 平成3年3月25日

発行 平成3年3月31日

印刷所 ㈱北海道機関紙印刷所

---





附圖 調査区域の遺構配置図